



始



ABC講座



平原社刊行



特々、  
486

# DEUTSCHE NUMMER INHALTSVERZEICHNIS

目次

Deutsches A. B. C (獨逸語ABC)	
Das Alphabet—der Vokal—der Konsonant die Silbentrennung—Betonung	2—12
Erstes deutsches Buch (獨逸語第一讀本) の研究	15—29
Lectio Eins—Lectio Zwei—Lectio Drei—Lectio Vier—Lectio Fünf	
Deutsche Grammatik (獨逸語文法)	30—51
Der Artikel—das Substantiv—das Pronomen—das Adjektiv—das Verbum— das Numerale—die Präposition—das Adverbium—die Konjunktion—die Interjektion	
Deutsche, Englische, Japanische Umgangssprache (日・獨・英會話集)	52—56

## Wie um Deutsche zu lernen?

### 如何にして獨逸語を學ぶべきか

一つの語學を獲得するには、それがどんなことでも同じでせうが、その語學に猛烈な熱を持つことで、語學といふものは、外見は一寸簡單に見えますけれども、その範圍は非常に廣汎で、一つの科學の研究などよりも遙に繁雜なものですから、これを内地で勉強しようとするには、餘程の熱を持たない限り、先づ成功の見込みはありません。熱がありさへすれば時間は問題ではありません。中學から大學へ通じて尠大な時間を使ひ乍ら、一つの語學さへものにならない人も随分あるでせうが、本當に熱をもつておれば、一ヶ年位で、大體一つの語學をものにすることが出来るのです。併しこの語學熱も間隔的では効果なく、一つの語學をやりかけたなら、孤逸のレニングラード攻略の様に熱を上げて遮二無二に突撃するのです。

大體一つの語學を獲得するには千時間を要しますが、これを十年に割つてするよりは、一ヶ年中に集中することです。一つの語學にとりかゝつたら、餘暇のある限り、電車の中でも、往來でも(尤もこれは交通の烈しいところでは危険ですが)、工場の間でも、便所の中へでも、語學の本を携へてゆつてみることです。

とにかく、この語學をものにしなければ、といふ不退轉の決意と、旺盛な征服慾をもつて、始めて榮冠は得られるのです。

それから書物ですが、これは二つも三つものものを同時に讀むよりは、先づ手頃なものを選択して、その一冊を征服して、それから次へ移るといふのがよろしいのです。で、初めに讀むものは、發音綴字のもの、それから譯讀的のものを先にするか、文法的のものを先にするか、又兩者を併りするかは、人によつて意見の相違する所でせうが、相當智識的な人であるならば、先づ文法書を読上げることをお勧めします。それはハイキングに於けるその地圖、築建に於ける設計圖の役をするのです。先づ一つの語學の大體のアウト・ラインを知悉して、それから歩を進めるといふことは最も能率的な勉強法です。

此の獨逸語研究誌も此見地から、獨逸語文法の大綱に渡つて、他に比し尠大な頁を避いて、先づこれだけで、文法的智識は十分といふところまで説明しました。それは譯讀的のものは、研究者の傾向に従つて今後は自由に選擇される容易さがあるからです。

# 獨逸語 ABC

## I. 獨逸語の文字

### 獨逸語のアルファベ

獨逸語に用ひられる文字は、英語や荷蘭西語と同じ様に二

獨逸體	羅句體	稱名	獨逸體	羅句體	名稱
ア	A a	ア-(a:)	エ	N n	エヌ(En)
ベ	B b	ベ-(be:)	オ	O o	オー(o:)
ツ	C c	ツエ-(tset)	ペ	P p	ペー(pe:)
デ	D d	デー-(de:)	ク	Q q	クー(ku:)
エ	E e	エー(e:)	エ	R r	エー(Er)
フ	F f	エフ(ef)	エス	S s	エス(es)
グ	G g	ゲー-(ge:)	エス	T t	テー(te:)
ハ	H h	ハー-(ha:)	ウ	U u	ウー(u:)
イ	I i	イー(i:)	ヴ	V v	フーウ(fūu)
ヨ	J j	ヨット(jot)	ヴ	W w	ヴェー(ve:)
カ	K k	カー(ka:)	ク	X x	イクス(ika)
ル	L l	エル(el)	プ	Y y	イプシロン(ypsilon)
ム	M m	エム(em)	ツ	Z z	ツェット(tset)

### 間違ひ易い獨逸語の小文字 (Fractur)

上掲の獨逸體文字の内から、字體が相似しい、一見差別し難い文字を次に抽出して置きます。

#### (1) プ文字

ア(エヌ)——ア(エル) 中央の密着の有無に注意して下さい。

ベ(ペー)——ベ(フーウ)

エ(エス)——エ(ヴェー) 下部の開閉に注意して下さい。

ツ(ツエ)——ツ(エー)——ツ(ゲー) 中央部の字體の形が次第に繁雜になつてゐるのに注意して下さい。

#### (2) 小文字

ア(ペー)——ア(デー)——ア(フーウ) 頭部の先端に注意して下さい。

イ(エフ)——イ(エス) 横線の左右へ抜けてゐるとゐないのに注意して下さい。

イ(カー)——イ(エム)——イ(イクス) 中央部の線の有

十六種類あります。そしてこれには英語や荷蘭西語に用ひられてゐる羅句體文字と獨逸語特有の所謂龜の子とが併合されてゐます。此兩者を次に掲げます。

無並に下端部の形に注意して下さい。

ム(エム)——ム(ヴェー) 下部の後部が密がつてゐるがヴェー。

ウ(エフ)——ウ(ウー) 開きが上部か下部かにあることによつて差別して下さい。

### 獨逸體文字と羅句體文字

従來獨逸語研究の一つの障礙であつた獨逸體の獨文字は獨逸本國でも久しい以前からその不便が唱へられて、各方面の書類、印刷物を通じて次第に羅句體文字に代へられてきました。今日に於ては殆どあらゆる國譯的書物、利學、文藝、美術、社會に關する出版物は羅句體文字で印刷されてゐます。もう我々は徒にあの煩はしい舊體の獨逸文字にこだはる必要はないので、此講義もその全體を羅句體文字で綴りました。唯だ判讀の參考の爲にこゝに獨逸體文字を掲げ、又發音の項には羅句體文字の前に、獨逸體文字を併記し、更にその終りに、讀方の一助とするために、獨逸體の文字を以て一列の文章を擧げて置きました。諸君がこれ等によく留意されたら、獨逸體の文章を讀むに十分で

あらうと思ひます。

### 獨逸體の筆記文字

これも、自ら此書體を勉強するほどの必要はないでせう

自分が書く場合となれば、論文、書翰文、商用文を問はず英語或は佛蘭西語に用ひる羅句體の筆記體を用ひる方が如何かに自他共に便利でせうが、他者の筆記文の判讀の參考のためにこゝに羅句體の筆記體と併せて掲げて置きます。

獨逸體	羅句體	獨逸體	羅句體	獨逸體	羅句體
A a	a a	o y	o j	z	s s
B b	B b	q	k k	z	t t
C c	C c	L l	L l	U u	u u
D d	D d	M m	M m	V v	v v
E e	E e	N n	N n	W w	w w
F f	F f	O o	O o	X x	x x
G g	G g	P p	P p	Y y	y y
H h	H h	Q q	Q q	Z z	z z
I i	I i	R r	R r		

## 2. 獨逸語の發音

### 母音と子音

獨逸語言葉はすべて、前に擧げた二十六の文字を組合せてあらはします。一つ或は二つ以上の文字を組合せて一つの意味ある言葉を作る時、これを語 (Wörter) といひます。又此等の文字の内 a, e, i, o, u の五つは母音 (vokale) といつて、他の b, c, d, f, g, h, j, k, l, m, n, p, q, r, s, t, v, w, x, y, z の二十一文字は子音 (Konsonanten) といひます。

此等の文字に附した假名はその文字の稱名です、此等の文字が語を構成した場合の發音は此後に説明します。

### 音の種類

なほ母音は言葉の主要な構成分子で、音の抑揚長短は母音があつて始め行はれます。子音は母音を補助して言葉に音の變化を與へるもので、それはその性質から、破裂音(例へば p, b, t, s, d, k, g) 摩擦音(例へば f, v, w, s, ch, j, y, h) 鼻音(例へば m, n) 流動音(例へば l, r) などに區別されます。

又此等の音の全體を、聲の音と、息の摩擦による音とに二大區別して、有聲音と無聲音とします。母音はすべて有聲音です。子音の内では、破裂音(或は閉止音といふ)の p, t, k, s [-ts] と摩擦音の s, ch, h が無聲音で他はすべて有聲音です。

獨逸語の母音

獨逸語の母音は英佛語のその様に、一つの母音(文字)が場合々々によつて夫々幾つもの異つた發音をするといふことが少なく、Umlaute (變母音: 母音の上に " 點のあるもの: ä, ö, ü) や複合母音 (二つ以上の母音を合せたもの: ai, ei, au, eu, ei, äu) 並に長音短音の場合を除いては、殆ど一文字一發音で、比較的簡單です。それ等の全部に渡つてこれから説明します。

單母音 (Einfache Vokale) と二重母音 (Doppervokale)

ā, a: A, a=ア (英國發音符號: a)\* 此音は邦語の ア を發音する時の口形より一層口唇を丸くしてつき出し加減にアと發音すると出ます。これは英語の father の a, 佛語では pas の a の音です。語例: Vater (fāt:ar), Blatt (blāt).

aa, aa; ah, ah: aa, aa; ah, ah =ア- (a:) a の二重母音 aa 並に ah は常に a の長音に發音します。なほかうした場合の h は全く無音です。語例: Aal (a:l) Ahle (a:l).

Ä: E, e 獨逸語の e には三種の音があります。

(I) e=エ (e:) その第一の e は、邦語のエを發音する時の口形より兩口唇を細く兩横にひいて エと發音すると出ます。獨逸語で e がかう發音する場合は長音となる場合に限りです。これは英語では late の a(i) の最初の e 音に、又佛蘭西語では é の音に當ります。語例: Geben (ge:bn), Mehl (me:l).

(II) e=エ (e) 此 e は第一の e に比して窄る開口の e であります。邦語のエと略ぼ似ていますが、口唇は一層開き加減してエと發音した時出ます。e が此音に發音される場合はその發音の終りに子音があつて e が短音に發音される場合です。語例: nennen (nen:n), lernen (lern:n).

(III) e=ウエ (e) e がアクセント (akzent) のない前綴、或は後綴 (後頁「V. 獨逸語綴音と強勢」参照) にある場合には此音に發音します。此 e はウとエの

\* 此項でかうした括弧 ( ) 内に記した横文字は英國發音符號です。

(ii) 現在我が國で刊行されてゐる獨和辭典や獨乙語講座には此 a の音を英國發音符號の (a) の音で表はしたものが多々ありますが、それはこの a=(a) の方が正しいと推想します。

中間の音で、邦語のウを軽く發音する時の口形で、咽喉からエと聲をだすと出ます。英語の manner の er の音、佛語の無音の e (muet) はこれと似た音です。語例: habe (hā:ba), bete (be:ta).

ee, eh: ee, eh=エ- (e:) これは前の aa, ah の場合と同じく、いつも長音に發音されます。

ÿ, i: I, i=イ (i) これは問題なく邦語のイと同一です。舌端の面を上顎に近づけてイと發音すると出ます。語例: mir (mi:), Finger (fing:er).

ie, ih, ih: ie ich ih は常に i の長音 (i:) に發音されます。語例: Liebe (li:ba), Vieh (fi:), ihr (i:tr). 但し ie はその上にアクセント (akzent) なき場合は i-e と別々に發音します。語例 Spanien=Spa-ni-en (ʃp:ni:n). Lilie=Li-li-e (li:li:ə).

Ö, o: O, o 此母音にも二種の音があります。

(I) o=オ (o:) o がアクセントのある綴音の終りにあつて、長音に發音される場合には此音に發音します。邦語のオより一層口をつぼめてつき出し加減にオ-と發音すると此音が出ます。語例: Boden (bo:d:a), oiea (o:ien).

oo, oh: oo, oh=オ- (o:) 語例: Boot (bo:t), Rohr (ro:r).

(II) o=オ (o) 上の場合を除いた o はいつも此音に發音します。これは邦語のオを發音する時の口形を更に幾分擴げて發音すれば出ます。語例: Kommen (k'o:m:n), soll (z:l).

ü, u: U, u=ウ (u) 邦語のウより遙かにづゝと口をつぼめて突出し加減にウと發音すれば此音が出ます。語例: Blut (lāt), huld (hult).

uh: uh=ウ- (u:) 語例: Blut (lāt), huld (hult).

ÿ, y: Y, y=イ (i) 或は=イ (i) y は外來語の内のみに用ゐられて、これが母音の前にある時は子音 (邦語のヤ行の父音) になりますが、獨立して一綴音をつくる時は母音となつて、i 或は ü と同音に發音します。y =i の語例: Cylinder (ts'ind:er), Tyrol (ti'rot:l);

(iii) 發音を示す振假名の内に用ゐた平假名は強勢 (アクセント) のある母音を示します。

(iv) (fāt:ar) の fa の前にある符號 ' は次の綴音 f に akzent (英語のアクセント) があることを、又 fa の次にある符號 ' はその母音が長音となることを示します。

y=ü の語例: Lyrik (ly:rik), Mystik (myst:k).

Leute (lɔ:itə).

變母音 (Umlaute) 三種

ä, ä: A, a=エ (e) 此音は先に説明した e の第二音と同音です。語例: gämen (r'em:n), Hände (h'end:a).

ö, ö: O, o これには二種の音があります。

(I) ö=ウエ (ø) これは長音に發音される場合で、邦語のウより一層口唇を丸くしてつき出し加減にした口形で、舌を浮かして後部へひき、咽喉の奥からウと聲をだすと出ます。佛語の feu の eu の音で、英語には此例はありません。語例: Ofen (ø:fen), Köhler (kø:l:er).

(II) ö=ウエ (œ) これは ö が短音に發音される場合の音です。此音は邦語のウの口形を少し丸くして舌の先端を少し上に向けてエとウの中間の聲を出すと出ます。語例: Höhle (hø:lə), könen (kœ:n:n).

ü, ü: U, u=ユ (y) 前に説明した單音の ou の口形 (邦語のウより遙かに口をつぼめて突出した) で、イと聲を出すと出ます。イとウの中間の音です。齒を合せて發音する邦語のユや、二重母音の英語のとは違ひます。佛語の mur の u と同一音です。語例: Ute (y:bal), führen (y:ran), küssen (kys:n).

複母音 (Diphtonge)

ai, ah, ei, eh: Ai, ay, ei, ey =ai=アイ (ai) これ等の四種の音は何れも前に單母音の處で説明した a と i の列んだ音に發音します。語例:

Kaiser (k'äiz:er), Wain (vain).

ah, ey の二綴音は今日は若干の個有名詞の内のみに用ゐられてゐます。語例: Meyer (m'öier), Bayern (b'öi:ern).

äu, au: Au, au=au=アウ (au) 前述の單母音の a と u の音。語例: Haus (häu:s), glauben (g'lau:b:n).

äu, äu, eu: Au, au, eu=oi=オイ (oi) äu と eu は共に oi の音に發音します。語例: Häuser (h'öiz:er), Name (näm:ə), gehen (ge:n).

獨逸語母音の長短

獨逸語の母音の長短は重母音 (同じ母音が二つ重なつたもの: aa, ee, oo) 並に無音の h の前の母音 (ah, eh 等の) 及び ie (=i:) を除いてはその屬する綴音 (英語の (s, llable) のこと、後頁「綴音と強勢」の項参照) の強弱 (akzent) のある綴音を強綴音といひ、それのない綴音を弱綴音といひます) 並に閉閉 (母音で終る綴音を閉綴音といひ、子音で終る綴音を閉綴音といひます) との関係によつてこれを定めることが出来ます。

母音が長音に發音される場合

(1) 重母音の場合: Haal (hā:l), Heer (he:r), Boot (bo:t).

(2) 同一綴音の内にある母音+h 並に ie. 語例: Ehre (e:ra), ihn (i:n), Rohr (ro:r), Ruhe (ru:a), Liebe (li:ba).

この (2) は讀者の判讀に便するために茲に特記しましたが、事實此等の語例は次の (3) 式 (4) の規定の内に包括して説明することも出来るものです。

(3) 一綴音の語或は強勢 (所謂アクセント) ある綴音の終りにある場合即ち強勢ある閉綴音の母音。語例: da (dā), haben (hā:b:n), Rose (rō:so), Typus (ty:pus).

(4) 一綴音の語で最後の子音の前にある場合。語例: gut (gu:t), mir (mi:r).

又語尾の l の前の母音も長く發音する。語例 Fuß (fuz) 但し冠詞並に動詞の變化形の内にはあらはれる一子音の前の母音は短かく發音する。語例: des (dɛs), hat (hāt).

母音が短く發音される場合

(1) 二重子音の前にある母音。語例: Ball (bāl), essen (ɛs:n).

(2) 二個以上の子音の前にある母音、即ち閉綴音の母音。Alt (ält), Richter (ri:ç:er).

(3) 強勢なき綴音にある母音。語例: Name (näm:ə), gehen (ge:n).

4. 獨逸語子音の發音

英語や佛蘭西語では母音の数が多く、その發音が極めて複雑してゐますが、此點では獨逸語は比較的簡單です。獨逸語ではむしろ子音の方が混入つてゐます。

單子音 (Einfache Consonanten) の發音

3, b: B, b 此の音には二種の發音があります。

(I) b=ブ (萬國發音符號:b) 此音は兩口唇を閉じて其間から無理にブと聲を出すやうにします。b は此音に發音されるのが一般の場合です。此同口形で聲の代りに息を出せば、p (フ) が出ます。b は p の有聲音 (濁音) です。語例: Bär (bɛ:r), heben (hɛ:bən)。

(II) b=p=ブ (p) b が一語の終りにある場合、並に發音の終りにあつて子音の前にある場合には p (フ) と清音に發音します。語例: Grab (gr:p), halp (h:lp), Herbst (hɛrpst)。

5, c: C, c は單子音としては外來語の内にのみ用ゐられます。又此子音は個々の音がなく、次にくる音によつて、或は k と同音に、或は z と同音に發音されます。

(I) c=k=ク (k) と發音される場合は、c が母音 a, o, u, 或は子音の前にある場合です。語例: Claque (kl:ko), Cato (ka:to), Vocal (vo:t)kul, Cognak (kon:ik)。なほ c=k の發音は k の部を御参照下さい。

(II) c=z=ツ (ts) と發音される場合は、c が母音 i, e, i, o, u の前にある場合です。この場合には又往々 z と書き代へることもあります。語例: Citrone, Zitorone (tsi:tro:ne), Officier, Offizier (ɔfi:tʃi:r)。

(例外) 佛蘭西語から來た言葉では、c が s の發音をする場合があります。語例: Farce (fɔrsə)。

d: ck=kk=k=ク (k) ck は k の二重子音と同様で、従てその直前に單母音がある時はこれを幾分促めて發音します。語例: backen (bɔkən), Eckel (ɛkəl)。

2, ð, ð D, d (I) d=F (d) d は此音に發音するのが

子音の發音の説明に用ゐた假名に (フ) の様に、右肩に記號 (') を付したものは、何れも邦字の假名より母音を引

一般の場合です。此音は舌端を上齒の裏面に當て、其間から無理にと聲を出すやうにします。語例: denken (dɛŋkən), S. haben (ʃa:bən)。

(II) d=t=ト (t) d が語尾或は發音の終りにある場合には t の音に發音します。t は [I] の d と同口形で唯だ聲の代りに息を出せばよろしいのです。語例: Rat (r:t), Mädchen (mɛ:tʃən)。

dt: dt=tt=t=ツ (t) dt の d は t と同様な發音になります。従て dt は t の二重子音と同様で、二つで t (ト) と發音し、若しその直前に母音があれば、この母音を促音にします。語例: Stadt (ʃtat), sandte (santə)。

ds: ds=ts=ツ (ts) Z (=ts) の場合と同じく、舌端を上齒の裏にあて、兩口唇を兩横に引き加減に息を強く出すと出る音です。語例: Abends (ʔ:bɛnts), Landsmann (lantsmann)。

f: f:F, f=フ (f) 此音は上齒を下口唇に當て、其間から無理に息を出すやうにします。語例: Frau (frau), führen (f:irən)。

g: g:G, g (I) g=グ (g) g は此の音に發音するのが一般の場合です。此音を發音するには舌の後部を揚げて上の軟口蓋の狭い通路から急速にグと發音すると出ます。例: gut(gu:t), groß (gro:s), Kö.ige (kø:ige)。g が此音に發音する場合は語頭或は發音の始めにある場合です。其他の場合には次に例外として擧げた様な音に發音します。

(II) g=k=ク (k) g が語尾或は發音の終りにある場合は語尾或は發音の終りの子音の前にあつて、長音の母音の次にある場合には此清音に發音します。例: Schlag (ʃla:k), Berg (bɛrk), Schlägst (ʃlɛ:kst), Tagd (tukt)。

(III) ig=ich=イッヒ (ic) g が i の次にあつて、語尾或は發音の終りであるか、或は子音の前にある、時は ch (ヒ) と發音します。語例: Kö.ig (kø:ic) (但しその複数の Kö.ige (kø:nige) の g は母音の前にある故 g (グ) と發音する), ermutigt (ɛrmu:tigt)。

此例外 (II) の例外もあります。例へば königlich (kø:niklic) の g は i の次にあつて、發音の終りにあ

つたことを示します。即ちブ=邦音のフ (bu) 一母音ウ (u)=b です。

るが (k) の音を持つてゐます。

(IV) ng=ング (ŋ) は英語の sing の ng の様に鼻音となつて發音します。例: bringen (brinŋ), lang(e) (la:, ʔaŋ)。

又北獨逸では ng が ングク (ŋk) と發音されることも往々あります。例: lang (laŋk)。

h: H, h=フ (h) これは邦語のハ行の父音です、口を自然に開いて喉頭の奥かち息をフと吐出す時に出る音です。h がかうした音に發音されるのは、語頭或は發音の初めにあつて強勢 (アクセント) のある母音の前にある場合です。語例: hundert (hundert), behunde (bahfnda)。

その他の場合の h は全く無音で、唯だその前にある母音を長音とします。語音: Schuh (su:), Fare (f:ra)。但し Oheim は oheim と h が發音します。

i: J, j=イ (j) 此 j は母音の i の子音化したもので、前に母音の部で説明した i を切斷的に (子音は元來刹那の音であつて、それと次にある母音との間に間隔はない)發音すると此音が出ます。これは英語や佛語の y と同性質の音ですが、獨逸語では極めて強く發音します。語例: ja (ja), Julie (ju:le)。但し佛蘭西語から轉化した語の内にある j はその本來の音 ジュ:3) を保ちます。語例: Journal (ʃur:nal)。

k: K, k=ク (k) 前述した g と同形で、聲の代りに息を出すやうに此音が出ます。語例: Kark (kɔrk), Knie (kni)。

l: L, l=ル (l) 舌端を上齒の裏面に軽く當てて其兩側からルと聲を洩らすと此音が出ます。英語の l と全く同じ發音です。語例: lang (laŋ), klein (klein)。

m: M, m=ム (m) 兩口唇を閉じて鼻から聲を洩らすと此音が出ます。語例: Morgen (morgən), Lamm (lam)。

n: N, n=ヌ (n) 舌端を上齒の裏面に當てた儘鼻から出すと此音が出ます。語例: Name (nɑ:mə), nein (nein)。

p: P, p=プ (p) 前述の b と同口形で、聲の代りに息を出すやうに此音が出ます。語例: Park (pɔrk), April (april)。

但し pf (pf) の p は下口唇を上齒にあてて發音し

す。例: pfird (pfe:rt)。

Q, q: Q, q=k=ク (k) 但し常に必ず u を伴つて、ku=kv=ク/フ (kv) と發音します。語例: Quelle (kv:le), quer (kve:r)。

r: R, r=ル (r) 此音を出すには、舌端を起して口蓋に向け振動させて強く聲を出す方法 (伊太利 r の發音法) と、喉頭の奥の懸垂を振動させて發音する方法 (佛蘭西 r の發音法) とがあります。此 r の發音法を非常にむづかしく言ふ人もありますが、實際にはそれ程のこともないのです。前者は所謂江戸ッ子の捲舌的に舌端をふるはせる調子で、後者は朝うがひする時に水をゴロゴロいはす時の調子で發音すればよいのです。併し舌端を上顎へつけて發音する英語の r とは全く異つた音です。語例: Rat (r:t), Jahr (jɔ:r)。

s: s: S, s s は三種の音を持つてゐます。

(I) 'S)=ス'(s) 兩齒を合せて舌の先端を軽く上齒に當て齒列の間から息を洩らすと出ます。英語や佛語の s と同じ音です。獨逸語の s が此音に發音するのは語尾或は發音の終りにある場合、及び子音の前にある場合と、それから流動音 l, m, n を除いた他の子音の後にある場合です。此 s の獨逸語の小文字の方には f と ß の二種類ありますが、此後者の s は語尾並に發音の終りにのみ用ゐます。語例: aus (ɔ) (aus), Maus(s)chen (ma:ʃən), Weste (vestə), Ochse (ok:sə)。

なほ ff (ss) と語の中間で s が二つ重なつた場合並に語尾の s (ss) は何れも、ス'(s) と清音に發音します。語例: Messer (mesər), Faß (fas)。

(II) s=ズ'(z) 上述 (I) の s と全く同じ口形で、唯だ息の代りにズと聲を出すやうに此音が出ます。英語や佛語の z の音です。s が此音に發音する場合は、語頭或は發音の始めにあつて、而も母音の前にある場合です。語例: Sohn (zo:n), Rose (ro:zə), 又流動子音 l, r, m, n の後にある場合も s と濁音に發音します。例: Insel (inzel)。

(III) s=sch=シュ (ʃ) 舌端を上齒の裏面に近づけてその狭められた通路から、息を擦れ加減に出すと此音が出ます。英語の sh よりむしろ佛語の ch に近い音です。單子音の s が此音に發音される場合は、語頭にあつて、而も p か t の前にある場合に限ります。語例: Sprache (ʃprɔ:ʃ), stehen (ʃte:n)。

**z, t: T, t = t'** (t) 此音は前述の d と全く同じ口形で喉の代りに息を出すと出ます。t は次に擧げる例外を除けば、常に此 t の音です。語例: Tag (ta:k), Tante ('tante). [例外] -tion, -tient の t は z (ツ':ts) の音に發音します。語例: Nation (nüt'si'o:n), Patient (patsi'ent).

**v, v: V, v = f = f'** (f) 前述した f と全く同じ發音です。語例: Vogel (fo:gal), Motiv (mo'ti:f). [例外] 外來語の語頭或は語間にある v は英語或は佛語に於ける様な v (ヴ) の音を出します。語例: Vase ('vɑ:ze), oval ('o'vɑ:l).

但し此場合も語尾にあれば清音です。語例: Adjektiv (adj.k'ti:f), Motiv (mo'ti:f).

**w, w: W, w = v** (v) 此音は前述した v 或は f と同じ様な口形ですが、その様に上歯を下口唇に強く當てず、唯だ當て加減にして強く息を出すと出ます。半有聲音的性質をもつた音です。邦語の行の父音と b との中間音です。此音は文字の上では英語や佛蘭西語にはありませんが、言葉の内には子音の同化作用によつて屢々これに近い音が出ます。例へば佛語の cheval (ʃə'vɑ:l) の v など此類似音です。語例: Wein (vɛ:n), Zwei (zvi).

**x, x: X, x = ks = ks'** (ks) 此音は前述した無聲音の k と s の二重子音として發音すればよいのです。語例: Text (tekst), Examen (Ek's:amɛn).

**y, y: Y, y = i** (i 或は i) y は國逸本來の言葉にはなく、外來語の内のみ用ゐて、母音の前には前述の j と同音に、其他の場合には母音として i と同音に發音します。語例: Yacht (jɔxt), Tyrol (ti'ro:l).

**z, z: Z, z = ts** (ts) t を發音する時の様に舌端を上齒の裏面に當て、兩口唇の端を横に引いて、舌端を透して息を強く出すと出ます。語例: Zahn (tsa:n), Schwarz (ʃvɛrts).

**複子音 (Zusammengesetzte Konsonanten) の發音**

**ch, ch: Ch, ch** ch には四種の發音があります。

(I) **ch** が a, o, u (iu) の次にある時には、邦語のハ行の父音を一層強めた、咽喉摩擦音に發音されます。而もそれは ch の前にくる母音 (a, o, u) が異なるに依つて多少異なるのです。併しそのどれも喉の無い完全な無聲音です。

sch の ch は邦語のハ行のハの音を出す口形で、咽喉の奥の方からハツと (聲ではなく) 息を強く出すと出ます。その ch の内には a の分子が入つてゐます。ach = ach (a) です。語例: sch (ix), lahen (lo:hen). och の ch は同じくハ行のホの音を出す同じ口形で咽喉の奥からハツと息を強く出すと出ます、その ch の内には o の分子が入つてゐます、och = och (o) です。語例: noch (nox), Tochter ('to:xtɔ).

uch の ch は h を出す時の様な自然の口形で、咽喉の奥からフツと息を強く出すと出ます。(これは寧ろ f に近いハ行のフの音の口形とは違ひます、その他のハ行の父音 h の口形に近いのです) 又此 ch の内には u の分子が入つてゐます、uch = uch (u) です。auch の ch も亦此音です。語例: Bu h (bu:x), auch (aux).

萬國發音符號では此等の音を皆 (x) の一字で表してゐます。

(II) **ä, e, i, eu, ei, äu, ö, ü** 及び子音の次にある **ch** は、邦語の「ヒ、(現々)」の ヒから聲を抜いた、即ち母音をとつた息だけの音の様に發音します。發音學上からいへば舌面を上顎に近づけて、其間の息の摩擦から出る無聲音です。指小接尾語の -chen の ch も此音です。萬國發音符號では **ç** で此音を表します。語例: lacheln ('lɛçaln), echt (ɛç), Kirche ('kirçə), Löcher ('loçɔr), Lerche ('lɛrçə), Hüchchen ('hu:ççən), Mädchen ('mɛ:ççən).

(III) 希臘語から轉化した外來語の語頭にある **ch** 並に語幹 (語尾變化のために附した s を意味しません、此場合には矢張り前の規則によります) の s の前にある **ch** は **k** (ク) と同音に發音します。語例: Christ (krist), Charakter (ku'rɔktɔr); Dachs (daks), O hse ('okse).

(IV) 佛蘭西語から轉化した言葉では、**ch** は **sch** (シュ) の音をあらはします。語例: Charlatan ('ʃarlatɑ:n), Charlotte (ʃɔrlotə).

**ph, ph: Ph, ph = f = f'** (f) これは主に希臘語から來た語の内に入ります。語例: Philosophie (filosofi),

**Alphabet** (alfabɛ:t).

**sch, sch: Sch, sch = ʃ** (ʃ) 此發音法は前に s の第三音 (p, t の前の s) として説明しましたから、夫を御参照下さい。語例: Schein (ʃi:n), Krsche ('kirʃə).

**th, th: Th, th = t = t'** (t) これも外來語の内のみ用ゐられます。Theater (te'a:tɔr), Thron (tro:n).

**ts, ts: ts, tz = t'z = t'z'** (t'z) ts 及 tz は常に語幹或は語尾あつて何れも z と同じ音に發音します。語例: stets (t'st:s), M tze ('m'tsɛ).

**tʃ, tʃ: tsch = tʃ** (tʃ) これは t と sch との複合子音で、英語の ch 佛語 tch と似た音で、邦語のチを強く發音すると此音が出ます。語例: Deutsch (dɔ:tʃ), Peitsche (pɛitʃə).

**二重子音 (Doppelkonsonanten) の發音**

二重子音は二つの同じ子音を重ねてあるもので、發音學上からは、その一つは無音となつて、これを單一の子音があるものと同様に發音するものでありますが、實際此場合にはその直前に單母音がある時は、此母音を幾分促音 (邦語の渡金 (メツキ) などの様なつまる音) に發音されます。萬國發音符號では、一般に此促音を特記することはありませんが、こゝには ('b=ッ) ('d=ッ) の様に促音の母音の後に (') 符を又邦字の假名の前に (.) を入れて示してみました。

**bb: bb = b'** (b)

語例: Abba (a'ba), Rabbes (ra'bɛs).

**cc: cc (+a, o, u, 或は子音) = kk ('k) = k'**

語例: accort (a'kɔrt).

**ä, e, i, ö, ü) = kts = t'z'**

語例: accent (a'ktɛnt).

**dd: dd = d'** (d, t')

語例: Addenda ('adɛndə), Kladdé (kla'dɛ).

**ff: ff = f'** (f)

語例: offen (o'fɛn), straff ('trɛf).

**gg: gg = g'** (g)

語例: Flagge ('fla'gə), Kogge ('ko'gə).

**tt: kk = k'** (k)

語例: Akka ('a'ka), Okkasion (o'ka:zi'o:zi).

**ll = l'** (l)

語例: Hällé (hɛ'lɛ), Ball (bal).

**mm mm = m'** (m)

語例: immer (i'mɛr), dumm (du'm).

**nn nn = n'** (n)

語例: sinnen (si'nɛn), wann (wa'n).

**pp pp = p'** (p)

語例: Käppi (kɛ'pi), opporium (o'portu:m).

**rr rr = r'** (r)

語例: Her (hɛr), Vorrat ('vor:ɔt).

**ss ss = s'** (s)

語例: Messer (mɛ'sɛr), wissen ('vi'sɛn).

**tt tt = t'** (t)

語例: Beiten (bɛ'tɛn), Hütte ('hy'tɛ).

**zz zz = z'** (z)

語例: Skizze (s'kitse).

【附言】 dd (dd) が語尾或は語尾の子音の前にある場合は tt (t) と等しく發音します。語例: odds (ɔts).

又 ff (ss) は語間にのみ用ゐる文字です、ss が語尾或は綴音の終りにある場合には必ず B の文字を用ゐます。此 B は一般に羅句號の間でも用ゐられます、又此場合の B の前にある母音は長音です。語例:

groß (gro:ß), G.ößen ('grɔ:ßɛn).

**補遺**

i. 萬國發音符號では言葉のアクセント (強勢) を示すために、その強勢される綴音 (Silb) の前に符 ' を置いて示すことは前に説明しましたが、その副勢 (次ぎの強さのアクセント) を示すには、符をその綴音の前に置きます。語例: 'ju:'mɛksɔr (shuhmacher), 'ra:ç'tu:m (Reichtum).

ii. 同じく長母音を示すためには、符をその母音の次に置きますが、それにつゞく長母音、即ち前者よりやゝ短い長母音 (言はゞ半長母音) を示すためには、符或は (:) 符をその母音の次に置きます。語例: nɔ:'is'o:n (nation), me:'lo:diç (melodisch).

iii. 前述の二重子音の項で、二重子音の前に起る母音の促音を示すために、符をその母音の次に置いて示すことにしましたが、萬國發音符號では此符を母音の前に置いて獨逸語特有の強い喉頭摩擦音の發音を示します。即ち獨逸語では語頭にある母音並に合成語の綴音となつた語のはじめにある母音はその母音を咽喉から息ではじき出す様な、或は強い喉をする様な staccato (斷音) に發音します。語例: 'alt (alt), nor:'ɔstɛn (Nordosten), 'an 'aric (unartig), 'zi 'ist 'alt (sie ist alt).

5. 獨逸語綴音と強勢

一つの母音を主體とした一列の音の綴を綴音 (Silbe) といひます。一つの綴音は一つの母音或は一組の複母音と子音との結合から出来てゐるのが普通の形であります。又一つの母音 (或は一組の複母音) のみで出来てゐるものもあります。併し子音のみの綴音はなく又一綴音の内に母音 (或は複母音) が二つ以上あることもありません。何故なれば元來綴音 (英語の syllable) は言葉を發音する場合の強弱抑揚のリズムの關係から生じるものであつて、言葉の内で此の強弱抑揚の變化を起すものは母音であります。若し二つの母音があれば、又その間にリズムの變化が起り、自からその二つの母音は二つの綴音に分れるからであります。

かうして一つの語 (Wort) は一つの綴音から出来てゐるものもあり、又二つ以上の綴音から出来てゐるものもあります。例へば wann (van), Haar (ha:r) は一綴音の語、Abend (a:bant) は二綴音の語、又 Erzählung (er'ts:lun) は三綴音の語です。

此綴音の性質を知り、二つ以上の綴音から出来た語の、その綴音の分れ目を知ることは、語勢を會得する上に、又筆記の際に行の終りへきて、語を二つに分つ時に肝要なことであります。

獨逸語の綴音 (Silbe) の分れ目

二綴音以上の語の綴音の分れ目は大體次の規則によります。

[1] 二つの母音に挟まれて一つの子音がある時は、その子音の前で分たれます。語例: Esel (e:zal) — E-sel, beugen (bo:gan) — beu-gen.

又複子音 ch, sch, ph, th, st, tz も亦一個の子音と見做して、上の規則によります。語例: Asche (a:ʃe) — A-sche, Grütze (gry:tse) — Grü-tze.

[2] 二つの母音の間に二重子音或は二つの子音 (但し前述の複合子音を除く) がある時は、音の切れ目はその二つ

の子音の間にあります。語例: offen (o'fan) — of-fen, Versuch (vər'zu:x) — Ver-such.

[3] 二つの母音の間に三個以上の子音がある場合は、綴音の切れ目は有聲子音と無聲子音との間にあります。語例: dämpfen (d'ämpfan) — däm-pfen, Fürsten (fyrstan) — Für-sten, Ferwanderter (fər'vantər) — Fer-wand-ter.

[4] 複合詞はその組成語の間で切れまします。語例: Handbuch (handbux) — Hand-buch, Inter-esse (intə'reʃə) — Inter-esse.

此場合は前の綴音の規則に拘泥しません。

獨逸語の強勢 (Betonung 又は Akzent)

一つの語を作る二つ以上の綴音には、それ等の間に強弱の關係があることを前に述べました。その強く發音する部分の綴音を Betonung 或は Akzent (英語のアクセント) があるといひます。

獨逸語の二綴音以上の單語を發音する際に、そのアクセントを正當につけるといふことは極めて重要なことであります。ではどの綴字にアクセントをつければよいかといふと、それを知るには先づ語幹 (Stamm), 前綴 (Vorsilbe), 後綴 (Nachsilbe) についての知識を持たなければいけません。

語幹 (Stamm), 前綴 (Vorsilbe), 後綴 (Nachsilbe)

語幹はその單語の主體となる部分で、此單語のあらはす意義は大體此語幹に基いてゐます。一綴音の單語は普通此語幹の部分のみから形成されてゐるのです。又獨逸語の二綴音以上の語は、一般に此語幹となる一綴音の單語に前綴或は後綴或は此兩者を添加したものです。

一綴音の單語の語例: Gut (gu:t), Mann (man).

二綴音以上の單語の語例: Ersatz (er'sʌts), Lieben (li:ban).

後者の語例では、Ersatz の satz が語幹、Er が前綴、Lieben では Liebe が語幹で、(b)en が後綴です。

前綴は語幹の前に附加して、その語となる單語の意義を限定します。例へば前例の Ersatz の Satz は、「一組」「一組」といつた意義で、Ersatz となると「補充」「補足」の意義になる。

後綴 (Nachsilbe) は語幹の後に附して、その語幹のあらはす意味を加重します。例へば前例の lieben の語幹 Liebe は「戀愛」といふ意味で、lieben となると動詞となつて、「戀愛する」といふ意味になります。

なほ此前綴、後綴となる綴音は、それだけ獨立して、單語として用ゐることは出来ないのです。これは語幹と全く相違してゐる處で、又これによつて、語幹と前綴、後綴の相違も容易に見出すことが出来ます。

強勢 (Akzent) のある場所

[1] 一綴音の語ではその主體となる母音の上にあります。語例: gut (gu:t), Mann (man) 但し此場合は一般の發音記號では、それを表示することはしません。

[2] 一綴音の語を基礎即ち語幹 (stammsilbe) として、これに附屬綴 (即ちそれが獨立しては語としての意味を持たない前綴並に後綴) を附加して作つた二綴音以上の語はその語幹に akzent を持ちます。語例: Be-ruf (be'ru:f), Mit-tel (mit'el), Er-fahrung-en (er'fʌ:runən). かうしたそれ自體に強勢を持つことのない附屬綴として用ゐられる前綴の主なるものは: be-, em-, er-, ge-, ver-, zer-.

又その後綴としては、-e, -el, -en, -ern, -es, -est, -ig, -in, -lich, -isch, -chen.

などでありませぬ。

[3] 前の [1] 又は [2] に擧げた様な單語の語或は強勢のない附屬綴をもつた複綴の單語が二つ以上合さつて出来た組成語では、主強勢 (高國發音記號ではそのアクセントのある綴の前に記號 ' 符を付けます) と副強勢 (その綴の前に記號 ˘ 符を付けます) との二つ以上の

高國發音符號による主勢 (haupttonig) を示す記號は ('), 副勢 (nebentonig) を示す記號は (˘) です。又通常語尾などによくある極く弱い綴音即ち無勢 (tonlos) を示す

accent をもちます。そしてその主勢となる accent は最初の組成單語の上に、副勢となる akzent は第二の組成單語の上にあるのが一般の原則です。

語例: Ostwind (ost'vint), Mund-koch (munt'kɔx), Auftrag (auf'tra:k), geistreich (gaist'raic), Mitleid (mit'leit), Umgang (um'gag), ausfuhr (aus'fu:r), Allmacht (al'maxt), fortsetzen (fort'sɛtsən), beistimmen (bai'timən).

だがこれにも多少の例外はあります。

[例外] 語例: Jahrhundert (ja:r'hundert), allmächtig (al'mɛçtɪç), vortrefflich (fo:r'trɛflic).

その組成語のあらはす意味によつて akzent の在り場所が異なる場合があります。例へば blutarm [blut+arm] は 'blu:t'arm と規則的に發音する場合は、「食血したる」を意味し、'blu:t'arm と例外的に發音する場合は「赤食洗ふが如き」の意味であります。又、同じく steinreich が、規則的に 'stain'raic と發音する場合は、「石に富める」の意味で、不規則的に 'stain'raic と發音する場合は、「巨富を有する」の意味であります。

[3] 前綴 (Vorsilbe) の ant-, ur- 並に (これは今日は獨立した單語としては用ゐられないが) bei-, fort-, vor- 及び zu- が語幹 (stamm) の前にある時は、此等の前綴に akzent があります。語例: Antwort (ant'vɔrt), urteilen (ur'tailən), vorkommen (fo:r'kɔmən).

[4] 否定の前綴 (Berneinungsvorsilbe) である un は他の前綴の前にある時は一般に主勢を持ちます。語例: unartig (un'a:rtɪç), ungeheuer (ungə'hɔiər), Unmensch (um'mɛnʃ).

但し動詞 (Zeitwort) から出た形容詞 (Eigenschafts-

にはその母音の上に記號 (˘) を冠する。語例: Vater (vat'ɛr), danken (dank'ɛn).

その場合その他二三の場合に於ける un- は第二の Akzent 即ち副勢を持つてゐます。語例: unausstehlich (unaus'te:lic), unauhaltbar ('unau'haltz̥a:m).

[5] durch-, hinter-, über-, um-, unter-, voll-, wieder- 等の前綴 (Vorsilbe) は此等の語が本来の意味を持つて組成語を作る場合は此等の前綴に主勢 (Haupttonig) がありますが、此等前綴が轉義の意味をあらはす時には主勢は他へ移ります。

前者の語例: übersetzen ('y:bar'z̥ɛtsən) 飛越へる。

後者の語例: übersetzen ('y:bar'z̥ɛtsən) 翻譯する。

[6] da-, her-, hin- 或は zu- を語頭に持つ前綴語並に副詞は、その主勢を第二發音の上に持ちます。語例: damit (da:'mit), davonlaufen (da:('fɔn'laufən), zusammenpressen (tsu:(')z̥ʊmən'prɛsə), daher (da:(')hɛ:r), hervorbringen (hɛr'fo:r'brɪŋən).

[7] 外國語から来た言葉では、ドイツ語として使はれてもその本来のアクセントを踏襲しますが、大體次の規則はこれに當てられます。

i. その語尾變化に獨逸語の語尾をとる外來の名詞は、その主勢を最後の主要なる發音の上に持ちます。語例: Soldat (zɔl'da:t), 同複數 Soldaten (zɔl'da:tən); Student (stu:(')dɛnt), 同複數 Studenten (stu:(')dɛntən); Metall (mɛ'tal), 同複數 Metalle (mɛ'talə); Melodie (me:(')lo:(')di:), 同複數 Melodien (me:(')lo:(')di:ən); Natur (na:(')tu:r).

但し -or にて終る名詞は唯だ一つの例外 [Doktor ('dɔktɔr), 同複數 Doktoren [dɔk'tɔ:rən] を除いては主勢は常にその最後の發音にある。

ii. 外來の接尾語で終る名詞は、たとへそれから作られてゐる言葉が生粋の獨逸語であつても、その主勢は此の接尾語の上にあります。語例: Bäckerei ('bɛkə'rɔi), Schmeichelei ('ʃmɛiçə'lɔi).

iii. 最後の發音に主勢を持つ名詞に獨逸語の接尾語を附して形容詞を作つた場合には、そのアクセントはその接尾語の前にある發音にある。語例: soldatisch

(zɔs'da:tɪʃ), metallen (mɛ'talən), melodisch (me:(')lo:(')di:), natürlich (nat̥ʃlɪç).

iv. 不定法の形に於て -ieren, -eien で終る動詞は、生粋の獨逸語から出來た言葉でも、その -ie-, -ei- を含む發音の上に常に主勢を持ちます。語例: studieren (stu:(')di:rən), studierst (stu:(')di:rɪst), probieren (pro:(')bi:rən), halbieren (hɔl'bi:rən).

補 遺

i. 獨逸語に於ては發音の切り方は、英語の所置 etymology (語原) や derivation (出所) に關係なく、常に發音の原則に従つて行はれる、例へば英語の ended は end-ed と切ることになつてゐるが、同じ様な語も、獨逸語では endete と正確に發音に従つて分けられる、かうして一行の終りに書き切れない一つの言葉がある時、その語の前後の二つの母音の間に一つの子音がある時は、その子音を後の母音に附して、その前で切られる。例へば, tre-ten, ge-hen の様にである。若し前後の母音の間に二つの子音がある場合には、その間でこれを切る、例へば Las-ten, Was-ser hak-ken (ck=kk), Knas-pe, Klop-sen, krat-sen の様にである。但し合成子音の ch, sch, ph, th は、これを一つの子音と見做して其間で切るとは出来ません。又三つ以上の子音が母音の間にある場合は、通常はその第一の子音の後で切つて、次の二つを第二母音の前につけます。語例: däm-pfen, Für-sten, dur-stig.

ii. 一つの語或は綴音が主勢を持つ 故にその母音が長く發音されるものは、その語或は綴音が強勢されない場合には、往々その母音は半長音となるか或は短音に發音される場合さへあります。例へば單に Die (di:) と發音する時はその i は長音になるが、Die Biene (di:(')bi:nə) の Die の i は半長音となる、又 Sie, sie flog (zi:, zi: flo:k) の sie の i は長音であるが、sie flog (zi:(')flo:k) と flog を sie より強く發音する場合 sie の i は半長音になります。

iii. 獨逸語の發音はひとり強勢する部分に限らず、その全體を通じて英語よりも遙に明快に一層力強く發音します、ですから獨逸語を完全に發音するにはその語を構成する母音子音の兩方を共に舌並に唇を十分力強く 備かして發音しなければなりません。

これで殆んど獨逸語の發音並に綴字に關する大要を盡しました。讀者が此講義の最初よりなほよく玩味されるなら、最早それに就いて遺憾はないと思ひます。

Erstes deutsches Buch (ドイツ語第一讀本) の研究

First German book

Lection Eins (第一課)

Lesson one

Conjugation von haben

Conjugation of to have

「持つ」の變化

ich habe	habe ich?
I have	have I?
du hast	hast du?
thou have	have thou?
er (sie, es) hat	hat er?
he (she, it) has	has he?
私達は持つ	私達は持つか?
あなた(方)は持つ	あなた(方)は持つか?
彼(彼女、それ)は持つ	彼は持つか?
wir haben	haben wir
we have	have we?
ihr habt	habt ihr?
Sie haben	haben Sie?
you have	have you?
sie haben	haben sie?
they have	have they?
私達は持つ	私達は持つか?
汝達は持つ	汝達は持つか?
汝等(又汝)は持つ	あなた(方)は持つか?
彼等は持つ	彼等は持つか?

Conjugation von sein

Conjugation of to be

「見る」の變化

ich bin	bin ich?
I am	am I?
du bist	bist du?
thou are	are thou?
er (sie, es) ist	ist er?
he (she, it) is	is he?
私はある	私はあるか?
そなたはある	そなたはあるか?
彼はある	彼はあるか?
wir sind	sind wir?
we are	are we?
ihr seid	seid ihr?
Sie sind	sind Sie?
you are	are you?
sie sind	sind sie?
they are	are they?
私達は持つ	私達は持つか?
汝達は持つ	汝達は持つか?
あなた(方)は持つ	あなた(方)は持つか?
彼等は持つ	彼等は持つか?

Singular

Plural

Mein

Plural

Was ist das? Das ist ein Auge.

What is that? That is an eye.

Hier ist ein Mann. Ist das Herr

Here is a man. Is that Herr

Hammer? Ja, das ist Herr Hammer.

Hammer? Yes, that is Herr Hammer.

Ist Herr Hammer ein Deutscher?

Is Herr Hammer a German?

Nein, Herr Hammer ist ein Amerikaner.

No, Herr Hammer is a American.

kaner.

can.

ここに一人の男がゐます。それはヘル・ハムメルですか。えい、それはヘル・ハムメルです。ヘル・ハムメルは獨逸人ですか? い、え、ヘル・ハムメルは亞米利加人です。

Ein Auge und ein Auge sind

One eye and one eye are

(=machen) zwei Augen.

(=to make) two eyes.

それは何ですか? それは一つの眼です。一つの眼と一つの眼とで二つの眼となります。

Ein Mann (=Mensch) hat zwei

A man (=person) has two

Augen und kann sehen. Albert, kannst du sehen, hast du Augen? Ya,

eyes and can see. Albert, can

you see, have you eyes? Yes,

you see, have you eyes? Yes,



Herr Wolf, ich habe Augen und kann hören.

Herr Wolf, I have eyes and can hear.

gut sehen. Albert, kannst du Anna

well see. Albert, can you Anna

sehen? Ya, Herr Bär, ich kann Anna

see? Yes, Herr Bär, I can Anna

sehen. Wo ist Anna? Anna ist hier.

see. Where is Anna? Anna is here.

一人の男(人)は二つの眼を持つてそして見る事が出来

ます。アルベルトよ、君は見る事が出来ますか、君は

兩眼を持つてみますか? はい、ヘル・グオルフよ、私は

兩眼を持つてゐて、そして見る事が出来ます。アルベ

ルトよ、君はアンナを見る事が出来ますか? はい、アル

ベルトよ、私はアンナを見る事が出来ます。アンナは何

處にいますか? アンナは此處にいます。

Was ist das? Das ist ein Ohr. Ein

What is that? That is an ear. One

Ohr und ein Ohr sind (=machen) zwei

ear and one ear are (=to make) two

Ohren. Ein Mensche (=Mann) hat

ears. A person (man) has

zwei Ohren und kann hören. Anna,

two ears and can hear. Anna,

hast du Ohren, kannst du hören?

have you ears, can you hear?

Ya, Herr Fischer, ich habe Ohren und

Yes, Herr Fischer, I have ears and

kann gut hören. Kannst du gut sehen,

can well hear. Can you well see,

Rudolph? Ya, Herr Ochs, ich habe

Rudolph? Yes, Herr Ochs, I have

Ohren und kann gut hören. Kannst

ears and can well hear. Can

du gut sehen, Rudolph? Ya, Herr

you well see, Rudolph? Yes, Herr

Ochs, ich kann gut sehen und gut

Ochs, I can well see and well

sehen. Albert, kannst du Anna

see? Yes, Herr Bär, I can Anna

sehen. Wo ist Anna? Anna ist hier.

see. Where is Anna? Anna is here.

Was ist das? Das ist ein Ohr. Ein

What is that? That is an ear. One

Ohr und ein Ohr sind (=machen) zwei

ear and one ear are (=to make) two

Ohren. Ein Mensche (=Mann) hat

ears. A person (man) has

zwei Ohren und kann hören. Anna,

two ears and can hear. Anna,

hast du Ohren, kannst du hören?

have you ears, can you hear?

Ya, Herr Fischer, ich habe Ohren und

Yes, Herr Fischer, I have ears and

kann gut hören. Kannst du gut sehen,

can well hear. Can you well see,

sehen. Albert, kannst du Anna

see? Yes, Herr Bär, I can Anna

sehen. Wo ist Anna? Anna ist hier.

see. Where is Anna? Anna is here.

Was ist das? Das ist ein Hous.

What is that? That is a house.

Ist das Hous neu oder alt? Es ist

Is the house new or old? It is

neu. Was ist neu? Neu ist nicht

new. What is new? New is not

alt, und alt ist nicht neu. Robert,

old, and old is not new. Robert,

hier ist auch ein Haus, Kannst du es

here is also a house, can you it

sehen? O ja! ich kann es gut sehen.

see? O yes! I can it well see.

Ist dieses haus neu oder alt? Es ist

Is this house new or old? It is

nicht neu, es ist alt. Ein Haus ist

not new, it is old. A house is

alt, und ein Haus ist neu.

old, and a house is new.

あれは何ですか? あれは一つの家です。その家は新しいの

ですか又は古いのですか? それは新しいのです。新しいの

は何ですか? 新しいのは古いのではないのです、そして古い

のは新しいのではないのです。ロバート、此處に又一つの家

があります、君はそれが見ることが出来ますか? ええはい、

私はそれをよく見ることが出来ます。此の家は新しいです

か、又は古いですか? それは新しくありません、それは

古いです。一つの家は新しい、そして一つの家は古いです。

Bist du alt, Anna? Nein, Herr

Are you old, Anna? No, Herr

Wolf, ich bin nicht alt, ich bin jung; er kann nicht sehen, er ist blind.

Wolf, I am not old, I am young; he can not see, he is blind.

aber Alfred ist alt. Ist herr Ochs Kann der Mann sehen? Nein, er kann

but Alfred is old. Is Herr Ochs Can the man see? No, he can

alt? Nein, Herr Ochs ist nicht alt. nicht sehen, er ist blind. Kann der

old? No, Herr Ochs is not old. not see, he is blind. Can the

Er ist jung. Mann hören? Nein, er kann nicht

He is young. man hear? No, he can not

sehen und nicht hören; er ist blind

see and not hear; he is blind

und taub. Emma, kannst du sehen?

and deaf. Emma, can you see?

Ya, ich kann gut sehen und hören.

Yes, I can well see and hear.

Jakob, hörst du Rudolph? Nein, Herr

Jacob, hear you Rudolph? No, "Mister

Augen, aber er kann nicht sehen. Bär, ich höre Rudolph nicht. Was!

eyes, but he can not see. Bär I hear Rudolph not. What!

Was! er kann nicht sehen? Nein, bist du taub, Jacob? Nein, ich bin

What! he can not see? No, are you deaf, Jacob? No, I am

Wolf, ich bin nicht alt, ich bin jung; er kann nicht sehen, er ist blind.

Wolf, I am not old, I am young; he can not see, he is blind.

aber Alfred ist alt. Ist herr Ochs Kann der Mann sehen? Nein, er kann

but Alfred is old. Is Herr Ochs Can the man see? No, he can

alt? Nein, Herr Ochs ist nicht alt. nicht sehen, er ist blind. Kann der

Wolf, ich bin nicht alt, ich bin jung; er kann nicht sehen, er ist blind.

Wolf, I am not old, I am young; he can not see, he is blind.

aber Alfred ist alt. Ist herr Ochs Kann der Mann sehen? Nein, er kann

but Alfred is old. Is Herr Ochs Can the man see? No, he can

alt? Nein, Herr Ochs ist nicht alt. nicht sehen, er ist blind. Kann der

old? No, Herr Ochs is not old. not see, he is blind. Can the

Er ist jung. Mann hören? Nein, er kann nicht

He is young. man hear? No, he can not

sehen und nicht hören; er ist blind

see and not hear; he is blind

und taub. Emma, kannst du sehen?

and deaf. Emma, can you see?

Ya, ich kann gut sehen und hören.

Yes, I can well see and hear.

Jakob, hörst du Rudolph? Nein, Herr

Jacob, hear you Rudolph? No, "Mister

Augen, aber er kann nicht sehen. Bär, ich höre Rudolph nicht. Was!

eyes, but he can not see. Bär I hear Rudolph not. What!

Was! er kann nicht sehen? Nein, bist du taub, Jacob? Nein, ich bin

What! he can not see? No, are you deaf, Jacob? No, I am

Wolf, ich bin nicht alt, ich bin jung; er kann nicht sehen, er ist blind.

Wolf, I am not old, I am young; he can not see, he is blind.

aber Alfred ist alt. Ist herr Ochs Kann der Mann sehen? Nein, er kann

but Alfred is old. Is Herr Ochs Can the man see? No, he can

alt? Nein, Herr Ochs ist nicht alt. nicht sehen, er ist blind. Kann der

old? No, Herr Ochs is not old. not see, he is blind. Can the

Er ist jung. Mann hören? Nein, er kann nicht

He is young. man hear? No, he can not

sehen und nicht hören; er ist blind

see and not hear; he is blind

und taub. Emma, kannst du sehen?

and deaf. Emma, can you see?

Ya, ich kann gut sehen und hören.

Yes, I can well see and hear.

Jakob, hörst du Rudolph? Nein, Herr

Jacob, hear you Rudolph? No, "Mister

Augen, aber er kann nicht sehen. Bär, ich höre Rudolph nicht. Was!

eyes, but he can not see. Bär I hear Rudolph not. What!

Was! er kann nicht sehen? Nein, bist du taub, Jacob? Nein, ich bin

What! he can not see? No, are you deaf, Jacob? No, I am

Wolf, ich bin nicht alt, ich bin jung; er kann nicht sehen, er ist blind.

Wolf, I am not old, I am young; he can not see, he is blind.

aber Alfred ist alt. Ist herr Ochs Kann der Mann sehen? Nein, er kann

but Alfred is old. Is Herr Ochs Can the man see? No, he can

alt? Nein, Herr Ochs ist nicht alt. nicht sehen, er ist blind. Kann der

old? No, Herr Ochs is not old. not see, he is blind. Can the

Er ist jung. Mann hören? Nein, er kann nicht

He is young. man hear? No, he can not

sehen und nicht hören; er ist blind

see and not hear; he is blind

und taub. Emma, kannst du sehen?

and deaf. Emma, can you see?

Ya, ich kann gut sehen und hören.

Yes, I can well see and hear.

Jakob, hörst du Rudolph? Nein, Herr

Jacob, hear you Rudolph? No, "Mister

### 註 釋

【1】 Erstes deutsches Buch の Erstes (=first) は順序数詞(英語の cardinal Number)で Lection Eins の Eins (=one) は普通数詞(英語の ordinal number)である。邦語の第一、第二、第三などに當る順序を示すために名詞に附する数詞は、その名詞の前に置く場合は順序数詞を、又その後に関く場合には普通数詞を用ゐる。

例 Erstes Lection (=First Lesson); Lection Eins (=Lesson One), など 1-より 10 までの普通数詞を下に挙げておく。

普通数詞: eins (=one), zwei (=two), drei (=three), vier (=four), fünf (=five), sechs (=six), sieben (=seven), acht (=eight), neun (=nine), zehn (=ten).

### 【2】 頭文字についての注意

i. 獨逸語に於ては、英語のそれと異つて凡ゆる名詞は頭文字(英語の所謂 Capital Letter)で書きはじめます。本課よりの引例: ein Man (男), ein Auge (眼), ein Ohr (耳), ein Haus (家)。

ii. 名詞として用ゐられた形容詞も同様です。例: das Schöne (美しい人)。

iii. これと反対に、英語では頭文字で書きはじめる個有名詞から轉化した國名の形容詞は、獨逸語では矢張り一般

形容詞と見做して、小文字で書きはじめます。例: die deutsche Sprache (獨逸語)。

### 【3】 du と ihr と Sie

英語では單に you (あなた)と一つの言葉であらわして居る第二人称の代名詞に、獨逸語では du と ihr と Sie との三通りの言葉を使ひます。その

i. du は第二人称の單数にのみ使はれる言葉で、而もその用途は佛蘭西語の tu, toi (お前)と等しく、子供を呼ぶ場合や、親しい友人間及び極く内輪の間でのみ用ゐます、此讀本の英語には假に thou といふ言葉を當てがてましたが邦語では、'お前' '君'などに當る言葉です。従つて普通の社交會話には絶対にこれを用ゐません。

ii. ihr は前に説明した du と同じ用途で 'お前達' '君達'といふ様な複数の場合に du の代りにこれを用ゐます。

iii. 上に挙げた様な卑近な関係を除いた一般の會話には du, ihr の代りに、單数共に Sie (あなた)といふ言葉を用ゐます。これは單数の場合でも、それに從ふ動詞は複数の形をとります。なほ此の Sie のはじめの S は常に頭文字で、sie と小文字を用ゐた場合は、それに附隨する動詞が單数である場合は、英語の she (彼女)の意味を持つ第二人称單数の女性代名詞で、それに附隨する動詞が複数の場合は英語の they (彼等、彼女等)の意味をあらわす第三人稱の複數代名詞となります。

nicht taub und nicht blind; aber ich  
ot deaf and not blind; but I

kann Rudolph nicht hören und sehen.  
can \* Rudolph not hear and see.

ここに一人の男がいます。彼は年寄りですか若いですか? 彼は年寄りです、非常に年寄りです。彼は両眼を持つてゐます、併し彼は見る事が出来ません。何に? 彼は見る事が出来ないのですか? えい、彼は見る事が出来

せん、彼は盲目です。(その)男は聞く事が出来ますか? いえ、彼は見る事も、又聞く事も出来ません、彼は盲目で聾者です。エンマ、君は見る事が出来ますか? はい、よくみる事も聞く事も出来ます。ヤコブ、君はルドルフ(の言葉)を聞きますか? いえ、ペールさん、私はルドルフを聞きません。何に! 君は聾者ですか? いえ、ペールさん、私は聾者でも盲者でもありません。だが私はルドルフ(の言葉)を聞く事も、又見る事も出来

## Lection Zwei (第二課)

Lesson two

Hier ist eine Frau. Herr Hammer  
Here is a woman. Mister Hammer

hat eine Frau; sie ist Frau Hammer.  
has a mistress; she is Mistress Hammer.

Haben Sie eine Frau? Ja, ich habe  
Have you a mistress? Yes, I have

eine Frau. Was ist eine Frau?  
a mistress. What is a mistress?

Meine Frau ist mein Weib, Ich bin  
My mistress is my wife. I am

Herr Wolf; Meine Weib ist Frau  
Mister Wolf; my wife is Mistress

Wolf.

ここに一人の婦人がいます。ペール・ハムメルは(一人の)夫人を持つてゐます。彼女はハムメル夫人です。君は(一人の)夫人を持つてゐますか? はい、私は(一人の)夫人を持つてゐます。夫人とは何ですか? 私の夫人は私の妻です。私はミスター・ヴォルフです。私の妻はヴォルフ夫人です。

Was ist das? Das ist ein Knabe.  
What is that? That is a boy.

Ist Johann ein Knabe oder ein Man?  
Is Johann a boy or a man?

Johann ist ein Knabe. Bist du ein  
Johann is a boy. are you a

Mann, Rudolph? Nein, Herr Bär, ich  
man, Rudolph? No, Mister Bär, I

bin nicht ein (=kein) Mann, ich bin  
am not a (=no) man. I am

ein Knabe.  
a boy.

あれは何ですか? あれは一人の子供です。ヨハンは(一人の子供)ですか、それとも(一人の)大人ですか? ヨハンは(一人の子供)です。ルドルフ、君は(一人の)大人ですか? いえ、ペールさん、私は(一人の)大人ではありません。私は(一人の子供)です。

Wo ist Anna? Anna ist hier. Was  
Where is Anna? Anna is here. What

ist Anna? Anna ist ein Mädchen.  
is Anna? Anna is a girl.

Was ist ein Mädchen? Das ist ein  
What is a girl? That is a

Mädchen. Was bist du, Johanna? Ich  
girl. What are you Johanna? I

bin ein Mädchen. Und was bist du,  
am a girl. And what are you

Karl? Ich bin ein Knabe. Ist Herr  
Karl? I am a boy. Is Mister

Wolf ein Knabe? Nein, ein Herr ist  
Wolf a boy? No, a master is

ein Mann. Herr Wolf ist ein Mann;  
a man. Mister Wolf is a man;

er ist alt und hat eine Frau. Ist  
he is old and has a wife. Is

Anna nicht ein Mädchen? Ja, Anna  
Anna not a girl? Yes, Anna

ist ein mädchen.  
is a girl.

アンナは何處ですか? アンナは此處です。アンナは何ですか? アンナは(一人の)小女です。(一人の)小女は何ですか? それは(一人の)女の子です。ヨハンナ、あなたは何ですか? 私は(一人の)小女です。カール、あなたは何ですか? 私は(一人の)少年です。ヴォルフさんは(一人の)少年ですか? いえ、(一人の)主人は(一人の)男です。彼は年輩で又(一人の)妻を持つてゐます。アンナは(一人の)少女ではありませんか? はい、アンナは(一人の)少女です。

Was ist das? Ist das nicht auch  
What is that? Is that not also

ein Mädchen? Nein, das ist ein  
girl? No, that is a

Fräulein. Ein Mädchen ist klein, ein  
lady. a girl is little. a

Fräulein ist groß. Ein Mann ist groß  
lady is big. A man is big,

ein Knabe ist klein. Bist du groß,  
boy is little. are you big,

Albert? Nein, Herr Wolf, ich bin  
albert? No, Mister Wolf, I am

Klein, ich bin ein Knabe. Ist Fräulein  
little, I am a boy. Is Miss

Hammer taub? O nein! Fräulein  
Hammer deaf? O no! Miss

Hammer ist nicht taub, sie kann sehr  
Hammer is not deaf, she can very

gut hören. Ist Frau Wolf klein? Nein,  
well hear. Is Mistress Wolf little? No,

sie ist groß, sehr groß.  
she is big, very big.

それは何ですか? それは又(一人の)少女ですか。いえ、それは(一人の)令嬢です。(一人の)少女は小さいのです。(一人の)令嬢は大きいのです。(一人の)男は大きく、(一人の)少年は大きいのです。アルベルト、あなたは大きいのですか? いえ、ヴォルフさん、私は小さいです、私は少年です。ハムメル嬢は聾者ですか? おい、いや、ハムメル嬢は聾者ではありません。彼は非常によく聞く事が出来ます。ヴォルフ夫人は小さいですか? いえ、彼女は大きい、非常に大きいのです。

Wo ist Fräulein Anna? Fräulein  
Where is Miss Anna? Miss

Anna ist hier. Ist Fräulein Johanna  
Anna is here Is Miss Johanna

hier? Nein, Fräulein Johanna ist  
here? No, Miss Johanna is

nicht hier. Rudolph, sehen Sie  
not here. Rudolph, see You

Joseph? Nein, ich sehe Joseph nicht,  
Joseph? No, I see Joseph not,

ich sehe Wilhelm. Ist Wilhelm hier?  
I see Wilhelm, Is Wilhelm here?

Nein, er ist nicht hier. Wo ist Wil-  
No, he is not here. Where is Wil-

helm? Er ist da. Was ist da? Da  
helm? He is there. What is there? There

ist nicht hier, und hier ist nicht da.  
is not here, and here is not there.

Ist Alfred hier oder da? Alfred und  
Is Alfred here or there? Alfred and

Wilhelm sind da. Lina! Bist du  
Wilhelm are there. Lina! are you

hier? Ja, Herr Ochs, ich bin hier.  
here? Yes, Mister Ochs, I am here.

アンナ嬢は何處ですか? アンナ嬢は此處にゐます。ヨハンナ嬢は此處にゐますか。いえ、ヨハンナ嬢は此處にゐません。ルドルフ、あなたはジョセフを見ますか?(sehen Sie Joseph?—do you see Joseph?) いえ、私は私はジョセフを見ません。(ich sehe Joseph nicht.—I don't see

Joseph.) 私はヴィルヘルムを見ま、ヴィルヘルムは此處ですか? いえ、彼は此處ではありません。彼、何處です。其處とは何ですか? 其處とは此處でないのです。そして此處とは其處でないのです。アルフレッドは此處にいますか、又は其處にいますか? アルフレッドとヴィルヘルムは其處にいます。リーナ、あなたは此處にいますか? ええ、オクスさん、私は此處にいます。

**Kann ich Fräulein Bertha sehen?**  
Can I Miss Bertha see?

**Ja, Herr Wolf, Sie können Fräulein**  
Yes, Mister Wolf, You can Miss

**Bertha sehen. Wo ist Fräulein Ber-**  
Bertha see. Where is Miss Ber-

**tha? Sie ist da. Wo sind Anna und**  
tha? She is there. Where are Anna and

**Emma? Sie sind hier; kannst du nicht**  
Emma? They are here; Can you not

**sehen, bist du blind? O nein! ich**  
see, are you blind? O no! I

**bin nicht blind; ich habe zwei Augen!**  
am not blind; I have two eyes,

**und sie sind weit offen. Mache die**  
and they are largely open. Let the

**Augen zu! Kannst du sehen? Nein,**  
eyes shut! Can you see? No,

**ich habe die Augen zu; aber ich**  
I have the eyes shut; but I

**mache die Augen auf und kann gut**  
make the eyes opened and can well

**sehen.**

私はベルタ嬢を見る事が出来ますか? (Kann ich Fräulein Bertha sehen? = Can I see Miss Bertha?) はい、ウォルフさん、あなたはベルタ嬢を見る事が出来ます。ベルタ嬢は何處にいますか? 彼女は其處にいます。アンナとエンマは何處にいますか? 彼等は此處にいます。君は

(1) Ein Mann (一人の男)は英語の a man と等しく、一人前の男をさす名詞であつて、Herr Hammer の Herr は英語の Mister と等しく男性の敬稱或は Master (主人)の意味、Frau といふ言葉はこれ一字で、英語の Woman に當る一般女性を指す言葉にも用ゐると共に、wife (妻)の意味を持ち、又は Frau Hammer (ハルメル夫人)の様に、女性の個有名詞の前に附して、既婚女性の敬稱にも用ゐる。同じく Fräulein (未婚の女性)といふ言葉にも、それが單獨に用ゐられた場合は単なる未婚の女性を示し、次に個有名詞を置いた場合は Fräulein Johanna (ヨハンナ嬢)の様にその敬稱として用ゐられる、英語では前者の場合は miss

見ることが出来ないのか、君は盲目ですか? おい、私は盲目ではありません。私は眼鏡を持つてゐます、そしてその眼鏡は大きく開いてゐます。眼鏡を閉ぢなさい。君は見えますか。いえ、私は眼鏡を閉ぢてゐます、だが私は眼鏡を開きます、さうすればよく見ることが出来ます。(この und は英語の and so (さうすれば)の意味。)

**Ist Herr Müller blind? Nein, Herr**  
Is Mister Müller blind? No, Mister

**Müller ist nicht blind. Er hat die**  
Müller is not blind. He has the

**Augen zu, aber er ist nicht blind. Ist**  
eyes shut, but he is not blind. Is

**Herr Bäcker jung? Er is alt, aber er**  
Mister Bäcker young? He is old, but he

**kann gut sehen und gut hören. Emil,**  
can well see and will hear. Emil,

**hast du die Augen zu? Nein, ich**  
have you the eyes shut? No, I

**habe die Augen auf. Kannst du**  
have the eyes opened. can you

**Fräulen Anna sehen? O ja! ich kann**  
Miss Anna see? O yes! I can

**Fräulein Anna gut sehen; sie ist da.**  
Miss Anna will see; she is there.

**Wo sind Frau und Fräulein Hammer?**  
Where are Mrs. and Miss Hammer?

**Sie sind beide (=alle zwei) hier.**  
They are both (=all two) here.

ミューレルさんは盲目ですか? いえ、ミューレルさんは盲目ではありません。彼は眼を閉ぢてゐます、(閉ぢた眼を持つてゐます)、だが盲目ではありません。ベツケルさんは若いですか? 彼は年とつてゐます、だがよく見ることもよく聞くことも出来ます。ユミール君は眼を閉ぢてゐますか? いえ、私は眼を開いてゐます。君はアンナ嬢を見る事が出来ますか? エー、はい、私にアンナ嬢はよく見えます。ハムメル夫人と令嬢は何處にいますか? 彼女等は兩人共此處にいます。

と書き、後者の場合には Miss と頭文字で書てゐる。  
(2) 日本語では、「お花は少女ではありませんか?」といふ否定の問ひに對しては、それが少女である場合には「いえ、お花は少女です。」と否定の言葉を前に置いて返事をしますが、獨逸語(これは英語の場合でも同じですが)では、問ひが肯定的であらうと、否定的であらうとを問はず、返答にその内容を肯定する時には等しく、Ja (=yes) と答へる、本課よりの引例: Ist Anna nicht ein Mädchen? (アンナは少女ではありませんか?) —Ja, Anna ist ein Mädchen. (はい、アンナは少女です。)

**Lection Drei (第三課)**  
Lesson three

**Conjugation von wollen**  
Conjugation of to wish

**Conjugation von können**  
Conjugation of to be able

「欲す」の變化

「出来る」の變化

Singular	ich will	will ich?	ich kann	kann ich?
	I want	do I want?	I can	can I?
	du willst	willst du?	du kannst	kannst du?
you want	do you want?	you can	can you?	
er will	will er?	er kann	kann er?	
he wants	does he want?	he can	can he?	
單數	私は欲す	私は欲するか?	私は出来る	私は出来るか?
	そなたは欲す	そなたは欲するか?	そなたは出来る	そなたは出来るか?
	彼は欲す	彼は欲するか?	彼は出来る	彼は出来るか?
Mehrzahl	wir wollen	wollen wir?	wir können	können wir
	we want	want we?	we can	can we
	ihr woll(e)t	woll(e)t ihr?	ihr könn(e)t	könn(e)t ihr
	Sie wollen	wollen Sie?	Sie können	können Sie
	you want	do you want	you can	can you
複數	sie wollen	wollen sie	sie können	können sie
	they want	do they want	they can	can they
	私達は欲す	私達は欲するか?	私達は出来る	私達は出来るか?
お前達は欲する	お前達は欲するか?	お前達は出来る	お前達は出来るか?	
あなた方は欲する	あなた方は欲するか?	あなた方は出来る	あなた方は出来るか?	
彼等は欲する	彼等は出来る	彼等は出来る	彼等は出来るか?	

**Was ist das hier? Das ist ein Johanna, bist du ein Fischer? O**  
What is this here? This is a Johanna, are you a fisher? O

**Mann. Was will dieser Mann? Er nein! Herr Wolf, ein Mann ist ein**  
man. What want this man? he no! Mister Wolf, a man is a

**will fischen. Kann er fischen? Ja, Fischer, seine Frau ist eine Fischerin.**  
wants to fish. Can he fish? Yes, fisher, his wife is a fisher-woman.

**er kann fischen, er ist ein Fischer. Das Wort Fischer ist männlich.**  
he can fish, he is a fisher. The word fisher is masculine.

**Kannst du fischen, Albert? Nein, Fischerin ist weiblich. Was ist**  
Can you fish, Albert? No, Fisher-woman is feminine. What is

**ich bin kein (=nicht ein) Fischer. männlich und weiblich? Der Mann**  
I am no (=not a) fisher. masculine and feminine? The man

ist männlich, das ist lateinisch weiblich, oder sächlich? Das Wort  
is masculine, that is in latin feminine, or neuter? The word

masculinum. Die Frau, ist weiblich **Fräulein** ist sächlich: das Fräulein.  
masculinum. The wife is feminine, lady is neuter: the (das) lady.

oder lateinisch femininum. Was Das Wort hat die Endung **lein**, und  
or in latin femininum. What The word has the ending lein, and

nicht männlich und nicht weiblich diese Endung ist auch sächlich.  
not masculine and not feminine this ending is also neuter.

ist, ist sächlich, oder lateinisch  
is, is neuter, or in latin

neutrum.  
neutrum.

これは何ですか? これは(一人の)男です。此男は何を  
しやうとしますか? (will dieser Mann? = does he want?)  
彼は釣魚をしやうとします。彼は釣魚が出来ますか? はい、  
彼は釣魚が出来ます。彼は漁師です。アルベルト、君は釣  
魚が出来ますか。いや、私は漁師ではありません。ヨハ  
ナ、あなたは漁師ですか? いえ、ヴォルフさん、(一人の)  
男は漁師ですが、彼の妻は漁師の妻です。漁師といふ言葉  
は男性です、漁師の妻は女性です。男性と女性は何ですか?  
男は男性です、それは羅句語でマスキリノムです。妻は女  
性です、即ち羅句語でフェミニヌムです。男性でも女性でも  
ないものは中性です、即ち羅句語でノイトロムです。

Ist ein Knabe männlich? Ein  
Is a boy masculine? A

Knabe ist männlich: der Knabe.  
boy is masculine: the boy.

Was ist ein Mädchen? Ein Mädchen  
What is a girl? A girl

ist sächlich: das Mädchen. Was!  
is neuter: the girl. What!

ein Mädchen ist sächlich? Ja, das  
a girl is neuter? Yes, the

Wort Mädchen hat die Endung  
word girl has the ending

**chen**, diese Endung ist sächlich.  
chen, this ending is neuter.

Und was ist ein Fräulein, männlich,  
And what is a lady, masculine,

weiblich, oder sächlich? Das Wort  
feminine, or neuter? The word

**Fräulein** ist sächlich: das Fräulein.  
lady is neuter: the (das) lady.

Das Wort hat die Endung **lein**, und  
The word has the ending lein, and

diese Endung ist auch sächlich.  
this ending is also neuter.

(一人の)男兒は男性ですか? (一人の)男兒は男性です、  
(即ち)デル・クナーベ。(一人の)女兒は何ですか? (一人  
の)女兒は中性です、(即ち)ダス・メツチエン。何に! 女兒  
が中性ですつて! はい、メツチエンといふ語はヘンといふ語  
尾を持つてゐます、此の語尾は中性です。では令嬢は何で  
すか、男性ですか、女性ですか、それとも中性ですか? 令嬢  
といふ語は中性です、(即ち)ダス・フロイライン。此語はラ  
インといふ語尾を持つてゐます、そして此語尾も亦中性で  
す。

Ist das Mädchen eine Amerikan-  
Is the girl an American-

erin oder eine Engländerin? Das  
woman or an English-woman? The

Mädchen ist eine Engländerin; der  
girl is an English-woman; the

Knabe ist ein Engländer. Was bist  
boy is an English-man. What are

du, Emma? Ich bin ein Amerikan-  
you, Emma? I am an American-

erin. Und was ist Fräulein Anna?  
woman. And what is lady Anna?

Das Fräulein ist auch eine Amerikan-  
The lady is also an American-

erin. Ist Herr Bär ein Amerikaner  
woman. Is Mister Bär an American

oder ein Engländer? Herr Bär ist  
or an English? Mister Bär is

ein Deutscher. Und was ist Frau  
a German. And what is Mistress

Bär? Ist sie eine „Deutscherin“?  
Bär? Is she a "German"

O nein! sie ist eine Deutsche; die hat h'er den Artikel **der**; das ist  
O no! she is a German; she has here the article der; this is

Dame ist eine Deutsche, der Herr der Nominativ männlich, und dieser  
lady is a German, the master the nominative masculine and this

ist ein Deutscher. Artikel ist bestimmt. Das Wort  
is a German. article is definite. The word

(あの)女兒は亞米利加女ですか、英吉利女ですか? (あ  
の)女兒は英吉利女です、(あの)小兒は英國人です。此等  
の國民名の語尾に注意せられよ。エンマ、あなたは何です  
か? 私は亞米利加娘です。そしてアンナ嬢は何ですか?  
(あの)令嬢も亦亞米利加娘です。ペールさんは亞米利加人  
ですか又は英國人ですか? ペールさんは獨逸人です。そ  
してペールの奥さんは何ですか? 彼女は „ドイッチェリン“  
(此の語尾の誤りに注意!) ですか。おゝ、いえ、彼女はド  
イツェ (獨逸女) です。夫人はアイネ・ドイツェ (獨逸女)  
で、主人はアイン・ドイツェル (獨逸男) です。

(その)男兒は何を持つてゐますか? (その)男兒は(一匹  
の)魚を持つてゐます。男兒はこゝでは主辭です、持つて  
ゐますは説明辭です。そして魚は目的辭です。主語は主辭  
に用ゐます。目的格は目的辭に用ゐます。男兒といふ語は  
こゝでデルといふ冠詞を持つてゐます。それは男性の主格  
です。そして此冠詞は定冠詞です。魚といふ語はこゝでは  
アインといふ冠詞を持つてゐます。それは男性の目的格  
です。そして此冠詞は不定冠詞です。

Was ist das? Das ist ein Fische  
What is this? This is a fish.

Ist ein Fisch männlich? Ein Fisch  
Is a fish masculine? A fish

ist männlich oder weiblich, aber das  
is masculine or feminine, or the

Wort **Fisch** ist männlich: der Fisch.  
word fish is masculine: the (der) fish.

これは何ですか? これは(一匹の)魚です。(一匹の)魚  
は男性ですか? (一匹の)魚は男性或は女性です、併し乍ら  
フィッシュといふ語は男性です、即ち、デル・フィッシュ。

Was hat der Knabe? Der Knabe  
What has the boy? The boy

hat einen Fisch. **Knabe** ist hier das  
has a fish. Boy is here the

Subject, **hat** ist das Prädicat, und  
subject, has is the predicate, and

Fisch ist das Object. Der Nominativ  
fish is the object. The nominative

ist für das Subject. Der Accusativ  
is for the subject. The accusative

ist für das Object. Das Wort **Knabe**  
is for the object. The word boy

und hat den Artikel einen: er hat  
and has the article a: he has

hat h'er den Artikel **der**; das ist  
has here the article der; this is

der Nominativ männlich, und dieser  
the nominative masculine and this

Artikel ist bestimmt. Das Wort  
article is definite. The word

**Fisch** hat hier den Artikel einen:  
fish has here the article a:

das ist der Accusativ männlich, und  
this is the accusative masculine, and

dieser Artikel ist unbestimmt.  
this article is indefinite.

einen Fisch. Hast du einen Fisch? und will nicht fischen.

a fish. Have you a fish? and want not to fish.

Ja, ich habe einen Goldfisch.

Yes, I have a Goldfish.

(あの)男児が持つてゐるものは何か、君に見えますか? はい、(あの)男児が持つてゐるものは何か、私に見えます。今、(あの)男児は何を持つてゐますか? 彼は(一匹の)魚を持つてゐます。こゝで主辭は何ですか? 彼が主辭です。説明辭は何ですか? 持つてゐますが説明辭です。そして目的辭は何ですか? (その)目的辭は魚です、そしてアイン(一匹の)といふ冠詞を持つてゐます。(即ち)彼は一匹の魚を持つてゐます。君は魚といふものを持つてゐますか? はい、私は(一匹の)金魚を持つてゐます。

一匹の魚と一匹の魚で二匹の魚となります(二であります)。(魚は複數の語尾に注意!)。(あの)男児は一匹の魚を持ち、又君は一匹の魚を持つてゐます、それで二匹になります。ヨハン、君は兩者の(その二つの)魚を見ることが出来ますか。はい、ウルムさん、私は知つてゐます、(その)男児が一匹の魚を持ち、そして私が一匹の魚を持つてゐます、それは二匹の魚です。漁師も亦魚を持つてゐますか? さうです、漁師も亦魚を持つてゐます。漁師の妻は魚を持つてゐますか? いゝえ、漁師の妻は魚を持つてゐません、彼女は釣魚することも出来なければ又しようともしません。

Ein Fisch und ein Fisch machen A fish and a fish make

(=sind) zwei Fische. Der Knabe hat (=are) two fishes. The boy has

einen Fisch, und du hast einen a fish, and you have a

Fisch, das macht zwei Fische. fish, that (=they) make two fishes.

Johann, kannst du beide (=die zwei) Johann, can you both (=the two)

Fische sehen? Ja, Herr Wurm, ich fishes see? Yes, Mister Wurm, I

sehe, der Knabe hat einen Fisch und see, the boy has a fish and

ich habe einen Fisch; das macht I have a fish; that (=they) make

zwei Fische. Hat der Fischer auch two fishes. Has the fisher also

Fische? O ja! der Fischer hat auch fishes? O Yes! the fisher has also

Fische. Hat die Fischerin Fische? fishes. Has the fisher-woman fishes?

Nein, die Fischerin hat keine No, the fisher-woman has no

(=nicht) Fische; sie kann nicht (=not) fishes; she can not

Ist die Fischerin Amerikanerin?

Is the fisher-woman American?

Nein, die Fischerin ist ein Deutsche.

No, the fisher is a German.

Ist der Fischer ein Deutscher?

Is the fisher a German?

Nein, der Fischer ist ein Engländer.

No, the fisher is an English.

Was bist du, Karl? Ich bin ein

What are you, Karl? I am an

Amerikaner. Und was bist du,

American. And what are you,

Emma? Ich bin ein Deutscher. Ist

Emma? I am a German. Is

Fräulein Anna eine Engländerin

Miss Anna an English-woman

oder eine Deutsche? O, sie ist

or a German-woman? O, she is

keine Engländerin und kein Deut-

not (an) English and not (a) Ger-

sche. Anna ist eine Amerikanerin.

man. Anna is an American-woman.

Was ist Herr Fischer? Herr Fischer

What is Mister Fischer? Mister fisher

ist ein Deutscher. Und was ist

is a German. And what is

Frau Fischer? Frau Fischer ist

Mistress Fischer? Mistress Fischer is

eine Deutsche.

a German.

え。(あの)漁師は英國人です。カル、君は何ですか? 私は亞米利加人です。エンマ、君は何ですか? 私は獨逸人です。アンナは英國人ですか獨逸人ですか? おゝ彼女は英國人でも獨逸人でもありません、アンナは亞米利加人です。フィッセルさんは何ですか? フィッセルさんは獨逸人です。そしてフィッセル夫人は何ですか? フィッセル夫人は獨逸人です。

(あの)漁師の妻は亞米利加人ですか? いゝえ、(あの)漁師の妻は獨逸人です。(あの)漁師は獨逸人ですか? いゝ

註釋

Fischer は漁師であり夫れに in を付けて Fischerin とすると女漁師となる。これは Fischer の場合だけでなく

とも様々に用ひられるから御注意下さい。例へば Freud は男友達の意味だがこれに in を付けて Freudin とすれば女友達となる。又 König は王様だが之に in を付けて Königin とすれば女王様となる、その他之に準じます。

Lection Vier (第四課)

Lesson four.

Declinations Eins.

Declension one

第一變化

Table with 4 columns: Case (Nominativ, Genitiv, Dative, Accusativ), Singular (der, the, dem, to the, den, the), Plural (die, the, den, die), and German explanation (e.g., 夫等の(凡ての)人々は). Includes labels 'Einzahl (Singular)', 'Mehrzahl (Plural)', and '複數'.

Hier ist ein Mann. Was ist regiert in Deutschland. Wer regiert

Here is a man. Who is reigns in Germany. Who reigns

dieser Mann? Er ist ein König. in Amerika? Der Präsident regiert

this man? He is a King. in America? This president reigns

Er regiert ein Land. Victoria in Amerika; er ist kein König, er

He reigns a land. Victoria in America; he is no king, he regiert in England, sie ist Königin ist unser Präsident.

von England. Kaiser Wilhelm 此處に一人の男が居ります。此の人は誰ですか、彼は(一人の)王様です。彼は一つの國を支配して居ます。グイタ

トリアは英國を支配して居ます。彼の女は英國の女王様です。ウイヘルム(ウイリアム)皇帝は獨逸を支配して居ます。誰れがアメリカを支配して居ますか。大統領がアメリカを支配して居ます。彼は王様ではありません、彼は吾々の大統領であります。

Sehen Sie den König? Ja, ich  
(Do See you this King? Yes, I

sehe den König. Er sitzt auf einem  
see this King. He sits on a

Thron. Das Wort auf ist eine  
throne. This word auf is a

Präposition (=ein Verhältnißwort)  
preposition (=a preposition)

und regiert den Dativ oder den  
and reigns the dative or the

Accusativ. Hier regiert es den  
accusative. Here reigns it the

Dativ. Wo sitzt den König? Er  
dative. Where (does) sit the King? He

sitzt auf einem Thron. Sitzen Sie  
sits on a throne. Sit (Do) you

auf einem Thron? Nein, ich bin  
on a throne? No, I am

kein König, ich sitze auf einem  
not a King. I sit on a

Stuhl. Was ist ein Stuhl? Hier ist  
chair. What is a chair? Here is

ein Stuhl. Ein Stuhl ist ein Sitz  
a chair. A chair is a seat

(=Platz) für eine Person. Eine  
(=place) for a person. A

Person sitzt auf einem Stuhl?  
person sits on a chair?

Wollen (=Wünschen) Sie einen  
Want (=Wish you a

Stuhl? Nein, ich danke, ich will  
chair? No, I thank, I wish

nicht sitzen, ich wünsche (=will)  
not sit, I want (=wish)

keinen (=nicht einen) Stuhl.  
no (=not a) chair.

あなたは此の王様を見ますか? はい、私は此の王様を見ます。彼は(一つの)王座の上に坐つて居ます。アウフといふ語は(一つの)前置詞であつて三格、若しくは四格を支配します。此處のはそれは三格を支配して居ます。王様はどこに坐つて居るか。彼は(一つの)王座の上に坐つて居ます。あなたは王座の上に坐りますか。いえ、私は王様ではありません、私は椅子に坐ります。椅子とは何ですか。此處に(一つの)椅子があります。椅子は人にとつての席であります。人は椅子の上に坐ります。あなたは椅子がほしいですか。いえ、ありがたう、私は坐りたくありません。私は椅子を欲しません。

Was ist das? Das ist ein Sopha.  
What is this? This is a sofa.

Das Wort Sopha ist sächlich: das  
The word sofa is neuter: the

Sopha. Wir sitzen auf einem Sopha,  
sofa. We sit on a sofa,

und Sie sitzen auf einem Stuhl.  
and you sit on a chair.

Wollen Sie einen Stuhl haben, oder  
(Do) want you a chair to have, or

wünschen Sie auf dem Sopha zu  
(do wish you on the sofa to

sitzen? Nein, ich danke, ich wünsche  
sit? No, I thank, I wish

nicht zu sitzen, ich will stehen.  
not to sit, I wish to stand.

之は何ですか。之はソファです。ソファと言ふ語は中性であります。ダス・ソファ、私共はソファの上にかけて居ます。そしてあなた達は椅子の上にかけて居ます。あなたは椅子がほしいのですか? それともソファの上に乗りたいのですか? いえ、ありがたう。私は腰かけたくはありません。私は立つてみたいのです。

Hier ist ein Mann, ein Knabe und  
Here is a man, a boy and

ein Hund. Der mann und der  
a dog. This man and this

Knabe sitzen. Der Hund sitzt auch. das ist nicht mein Hund, das ist  
boy sit. This dog sits also. this is not my dog, this is

Sind sie alle Drei (3) groß? Der Josephs Hund. Ist Josephs Hund  
Are they all three 3 big? This Joseph's dog. Is Joseph's dog

mann ist groß; der Knabe ist klein; kleiner als Karls Hund? Karl hat  
man is big; this boy is small; smaller than Karl's dog? Karl has

der Hund ist kleiner.  
this dog is smaller. Hat Gustav keinen  
not a dog. Has Gustav not a

Hund? O ja! Gustav hat einen  
dog? O yes! Gustav has a.

Hund; aber er ist jung und klein.  
dog; but he is young and small.

Er ist so klein wie eine Katze.  
He is so small as a cat.

Klein ist ein Adjectiv oder Eigen-  
Small is a adjective or attribute.

schaftswort. Der Positiv ist klein;  
The positive is klein small;

der Comparativ ist kleiner; der  
the comparative is kleiner; the

Superlativ ist klein(e)st oder am  
superlative is klein(e)st or am

kleinigen. Wer ist kleiner als der  
kleinigsten. Who is smaller than this

Mann, der Hund oder der Knabe?  
man, this dog or this boy?

Der Knabe ist kleiner als der Mann  
This boy is smaller than the man

und der Hund ist kleiner als das  
and the dog is smaller than this

Knabe. Johann, bist du kleiner als  
boy. Johann, are you smaller than

Alfred? Ja, Herr Ochs, Ich bin  
Alfred? Yes, Mister Ochs, I am

kleiner als Alfred; aber Joseph ist  
smaller than Alfred; but Joseph is

kleiner als ich; er ist am kleinsten.  
smaller than I; he is the smallest.

Wilhelm, ist das dein Hund? Nein,  
Wilhelm, is this your dog? No,

クライン(小さい)は一つの形容詞です。原形がクラインで比較級はクライネルです。最大級はクライネスト若しくはアム・クライニヒスチンです。その男より何が小さいでせうか? 犬でせうか? それとも少年でせうか? 少年はその男よりも小さい。そして犬は少年よりも尙ほ小さいのです。ヨハン、お前はアルフレッドより小さいか? はい、オックスさん、私はアルフレッドよりも小さいのです。併しヨセフは私よりも小さいのです。彼は一番小さいのです。ウイヘルム、之はお前の犬ですか? いえ、之は私の犬ではありません。之はヨセフの犬です。ヨセフの犬はカールの犬より小さいですか? カールは犬を持つて居ません。グスタフは犬を持つて居りませんか。え、グスタフは犬を持つて居ります。併し夫は幼くて小さい。犬は一匹の猫の様に小さいのです。

Was ist eine Katze? Hier ist  
What is a cat? Here is

eine Katze; die Katze miaut. Miaut  
a cat; the cat meows. (Does) Meow

der Hund? Nein, der Hund bellt,  
the dog? No, the dog barks,

und die Katze miaut. Miaut oder  
and the cat meows. Meows or

bellt der Mensch? Der Mensch  
barks the man? The human-being

(=Mann) spricht. Heinrich, sprichst  
(=man) speaks. Heinrich, (does) speak

du englisch? Ja, Ich spreche deutsch sprechen lernen.

you english? Yes, I speak german to speak to learn.

englisch und deutsch. Wir sprechen

deutsch in dieser Klasse. Können

Sie nicht deutsch sprechen, Herr

Müller? O, ja! ich kann deutsch

sprechen, und meine Frau will

猫はどれですか? 此處に猫が居ります。猫はニャーニャーとなきます。犬はニャーニャーとなきますか? いゝえ、犬は吠えます。そして猫はニャーニャーなきます。人はニャーニャーなくのですか? 吠えるのですか? 人は喋舌るのです。ハインリッヒ、お前は英語を喋舌れるか? はい、私は英語と獨逸語を喋舌ります。吾々は此の教室で獨逸語を喋舌ります。ミューラーさん、あなたは獨逸語を話すことは出来ませんか? え、私は獨逸語を話すことが出来ます。そして私の妻は獨逸語を話すことを望みたがつてゐます。

註 釋

獨逸語に於いて形容詞は原級は原形の儘ですが、比較級には er をつけ最上級には (e)st を付することになつてゐます。母音に umlaut を付する場合も多く、trocken, trockener, trockenst と云ふ風にもなり、alt, älter, ältest

と云ふ風になります。より詳しく説明すれば a, o, u の母音があつても變化しない場合は au の母音の場合、或は其の形容詞が en, el, er, bar, haft, tig 等の語尾をもつてゐる場合は umlaut を付けません。以上の外の不規則變化形容詞は數語あるのみです、gut, besser, best, wenig, minder, mindest, vier, mehr, meist などがそれです。

Lection Fünf (第五課)

Lesson five

Conjugation des Präsens von nennen (=heißen)

Conjugation of the present of to call (=to name)

呼ぶ、稱するの變化

Einzahl (Singular)	Person 1. ich nenne (=heiße)	heiße ich?
	1st person. I call (=name)	(do) call I?
	Person 2. du neunst (=heißest)	heißest du?
2nd person. you call (=name)	(do) call you?	
Person 3. er (sie, es) nennt (=heißt)	heißt er (sie, es)?	
3rd person. he (she, it) calls (=name)	(does) call he (she it)?	
Mehrzahl (Plural)	Person 1. Wir nennen (=heißen)	heißen wir?
	1st person. We call (=name)	(do) call we?
	Person 2. ihr nenn(e)t (=heiß(e)t)	heiß(e)t ihr?
	2nd person. you call (=name)	(do) call you?
	Sie nennen (=heißen)	heißen Sie?
You call (=name)	(do) call you?	
Person 3. sie nennen (=heißen)	heißen sie?	
3rd person. they call (=name)	(do) call they?	

Ist ein Knabe ein Mensch? O Hausthier hat auch einen Namen.

Is a boy a human being? O domestic animal has also a name.

ja! ein Mensch kann ein mann, ein Wie nennt Gustav seinen Hund? Er

Knabe, ein Mädehen, ein Fräulein, nennt seinen Hund Bello. Wie

eine Frau, oder ein Kind sein. Ich heißen Sie, mein Herr? Ich heiße

verstehe das Wort Kind nicht. Wilhelm Müller. Wie heißt das

Hier ist ein Kind. Das Kind ist Kind des Fischers? Es heißt Clara.

sehr jung und sehr klein. Es kann Ist das Kind nicht ein Knabe? O

noch nicht sprechen, es ist zu jung. nein! das Kind des Fischers ist ein

Hat dieses einen Namen? Ja, sein Mädchen. Wie heißt Alfreds Hund?

Namen ist Jakob. Er heißt Sultan.

少年は人間でありますか? えゝ、さうです。人間と言ふのは成人でも、少年でも、娘でも、令嬢でも、奥嬢でも、子供でもあり得るのです。私は「子供」と云ふ言葉がわかりません。此處に一人の子供がゐます。夫の子供は非常に若くそして非常に小さいのです。夫の子供は話す事が出来ません。夫は余りにも若いのです。此の子供は(一つの)名を持つてゐますか。はい、彼の名はヤコブと云ひます。

Alle Menschen haben Namen.

All human beings have names.

Hat deine Katze nicht auch einen

name? Ja, ich nenne (=heiße)

meine Katze Mies. Aber die Katze ist größer als dein Hund. Was!

ist kein Mensch! O nein! die Katze Alfreds Hund ist größer als mein

ist ein Thier, ein Hausthier. Das Hund? Ja, er ist größer als dein

凡ゆる人間は名を持つてゐます。あなたの猫も亦名を持つてゐませんか。はい、私は私の猫をミースと呼んでゐます。併し猫は人間ではありません。おゝ、さうです。猫は(一つの)動物です。家畜です。家畜も亦(一つの)名を持つてゐます。グスターフは彼の犬をなんと何と呼んでゐますか。彼は彼の犬をベロと呼びます。あなたは何と云ひますか? 私はウイルヘルム、ミューラーと申します。この漁師の子供は何と呼びますか? クララと云ひます。此の子供は(一人の)少年ですか? えゝ、いゝえ! 此の漁師の子供は(一人の)娘です。アルフレッドの犬はなんと云ひますか? 夫はサルタンと呼ばれます。

Ist Alfreds Hund groß? Ja, er

ist größer als dein Hund. Was!

Alfreds Hund ist größer als mein

Hund? Ja, er ist größer als dein

Hund; aber er ist nicht so groß als Fischer in dem Boot? Ja, drei  
*dog; but he is not so big as fisher in the boat? Yes, three*

Wilhelms Hund. Hat Wilhelm auch Fischer sind in dem Boot. Hat das  
*Wilhelm's dog. Has Wilhelm also fishers are in the boat. Has this*

einen Hund? Ja, er hat auch einen Boot ein Segel? Ja, das Boot hat  
*a dog? Yes, he has also a boat one sail? Yes, this boat has*

Hund, und er ist am größten. ein Segel. Hat es nur ein Segel?  
*dog, and he is the biggest. a sail. Has it only one sail?*

Johann, wer ist größer, du, oder Nein, es hat drei Segel. Sind alle  
*Johann, who (=which) is bigger, you, or No, it has three sails. Are all*

Wilhelm? Wilhelm ist größer als drei Segel gleich groß? Nein, sie  
*Wilhelm? Wilhelm is bigger than three sails equally big? No, they*

ich; aber er ist nicht so alt als sind nicht gleich groß. Ein Segel  
*I; but he is not so old than are not equally big. A sail*

ich; er ist jünger. Kannst du sehen, ist groß, und zwei Segel sind klein.  
*I; he is younger. Can you see, is big, and two sails are small.*

Johanna, bin ich kleiner oder größer Sind die Segel im Wasser? Nein,  
*Johanna, am I smaller or bigger Are their sails in the water? No,*

als dieser Knabe? Du bist größer, das Boot und das Netz sind im  
*than this boy? You are bigger, this boat and this net are in the*

aber auch älter als er. Wasser.  
*but also older than he. water.*

アルフレッドの犬は大きいですか? はい、夫はあなたの犬より大きいです。なんですつて! アルフレッドの犬が私の犬より大きいのでつて? えい、夫はあなたの犬よりは大きいですがそれはウイヘルムの犬ほど大きくはありません。ウイヘルムも亦一匹の犬を持つて居るのですか? はい、彼も亦一匹の犬を持つて居ます。そして夫が一番大きいのです。ヨハン、お前とウイヘルムはどちらが大きいのですか? ウイヘルムが私より大きいのです。併し彼は私程の年をしては居ません。彼はより若いのです。ヨハナ、私は此の少年より小さいですか大きいですか? あなたは彼よりも大きいが又年もとつて居ます。

Was ist das hier? Das ist ein Hat der Fischer ein Boot? Ja,  
*What is this here? This is a Has this fisher a boat? Yes,*

Boot. Wo ist das Boot? Das Boot der Fischer hat ein Boot; es ist ein  
*boat. Where is this boat? This boat this fisher has a boat; it is a*

ist im (=in dem) Wasser. Sind Segelboot. Hat die Frau des  
*is in the water. Are sailing boat. Has the wife of this*

此處にあるこれは何ですか? 此は(一つの)ボートです。此のボートは何處にあるのですか? 此のボートは海の中にあります。ボートの内に漁師が居ますか? はい、三人の漁師が此のボートの内に居ります。此のボートは(一つの)帆を持つて居りますか? はい、此のボートは(一つの)帆を持つて居ります。それは亦一つの帆を持つて居るのですか? いえ、それは三つの帆を持つて居るのです。凡て三つの帆は均しく大きいのですか? いえ、夫等は均しく大きくはないのです。一つの帆は大きい、そして二つの帆は小さい。帆は海の中にありますか? いえ、海の中にはボートと網とがあります。

Fischers auch ein Segelboot? Nein,  
*fisher also a sailing boat? No,*

die Fischerin hat kein Boot, das ist  
*the fisher-woman has not a boat, this is*

das Segelboot des Fischers. Haben  
*the sailing boat of this fisher. Has*

die Fischer ein Netz im Wasser?  
*this fisher a net in the water?*

此の漁師は(一つの)ボートを持つて居ますか。はい、此の漁師は(一つの)ボートを持つて居ます。それは帆船です。此の漁師の妻君も亦一つの帆船を持つて居ますか? いえ、漁師の妻君はボートを持つて居ません。此は漁師の帆船です。漁師達は海に網を持つて居ますか? [漁師は海に網をなげてるのかの意味]

Das ist das Netz der Fischer.  
*This is the net of the fishers*

Was wollen die Fischer mit dem  
*What (do) wish these fishers with the*

Netz im Wasser? Sie wollen Fische  
*net in the water? They wish fishes*

fangen (=fischen). Was ist das  
*to catch (=to fish). What is this*

Wort Fangen? Wir wollen sehen,  
*word catch? We wish to see,*

was es ist.  
*what it is.*

これは漁師達の網です。此の漁師達は海の中の網で何を(取らうと)欲してゐるのでせうか。彼等は魚を捕へようと欲してゐるのです。「捕へる」と言ふ言葉は何でせうか。吾々は夫れが何であるかを見たいと思ひます。

Was ist das hier? Das ist eine  
*What is this here? This is a*

Ratte. Nun, kannst du die Katze  
*rat. Now, can you this cat*

springen sehen? O Ja! ich sehe sie  
*spring up see? O Yes! I see she*

springen. Sie will eine Ratte oder  
*spring up. she wish a rat or*

eine Maus fangen. Sind Ratten in  
*a mouse to catch. Are rats in*

diesem Haus? O nein! Wir haben  
*this house? O no! We have*

eine Katze und sie fängt alle Ratten.  
*a cat and she catches all rats.*

此處にあるこれはなんですか? 之は一匹の鼠です。今あなたは猫が跳んでゐるのが見えますか? おい、見る事が出来ます。私は猫が跳んでゐるのを見ます。猫は鼠或は鼯鼠を捕へようとしてゐます。鼠は此の家の中に居りますか? えい、いえ、吾々は一匹の猫を持つて居ります。そして猫は凡ての鼠を捕へます。

## 註 釋

[1] nennen, heißen は .....と稱する .....と言ふ.....と呼ぶ、と云ふ意味の語である。英語の to call 或は to name に當る、nenne の Infinitiv は nennen, Imperfectum は nannte, Participium は genannt と變化する。heißen は heißen, hieß, geheißen と變化する。

[2] 歐米語の何等かの一つをおやりになつた方は既に御承知の答であるが一般に否定の言葉を含む疑問文を肯定する時は、日本語と反對に、矢張り肯定の言葉 ja で答へる。

[3] Sie wollen Fische fangen (=fischen) の所で御覽になる様に助動詞を伴ふ場合動詞 Infinitive は最後に来る。

[4] 此の章の初めに ein Mensch kann ein Mann, ein Knabe, ein Mädchen, ein Fräulein, eine Frau oder ein Kind sein の下の英文は a human being can a man, a boy, a girl, a young lady, a wife, or a child be となつてゐるのがかう云ふ文章はないのである、英文では a human being can be a man, a boy.....と云ふ風になる。其の他疑問文で、( )をつけて does 若しくは do を付したのも之等の不十分な點を補はうとする積りである。念の爲め一言しておく。乞御諒解!

[5] Kannst du sehen, .....は云々をあなた方は見る事が出来るかと云ふのであつて簡単に上記の様に譯して於いてかまはない。



## Deutsche Grammatik 獨逸語文法要綱

獨逸語のあらゆる言葉は、他の國語とほゞ同じ様に、次の十品詞 (zehn Wortarten) に分けることが出来ます。

- |                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 冠詞 (das Artikel)    | 6. 數詞 (das Numeral)        |
| 2. 名詞 (das Substantiv) | 7. 前置詞 (die Präposition)   |
| 3. 代名詞 (das Pronomen)  | 8. 副詞 (das Adverbium)      |
| 4. 形容詞 (das Adjektiv)  | 9. 接續詞 (die Konjunktion)   |
| 5. 動詞 (das Verbum)     | 10. 間投詞 (die Interjektion) |

以上の十品詞の中、獨逸語では、(1) の名詞から、(6) の數詞までが、可變化詞で、性、數、格、人稱等によつて、又動詞は更に時相によつて、語尾或は語幹或はその両者が變化しますが、(8) の副詞、(9) の接續詞 (10) の感嘆詞は常に不變化の言葉です。但し副詞は、比較の意味を含む時だけは、形容詞の様に變化します。

こゝに挙げた變化までは、大体英語や佛蘭西語と同じですが、獨逸語には更に、名詞、代名詞並に形容詞に強變化、弱變化、混合變化といふものがあり、動詞には強變化動詞、弱變化動詞といふものがあります。これは獨逸語特有の名稱で、獨逸語研究者が先づ述べられるのは此等の点ですが、併しその智識を獲得されれば、獨逸語は、英佛語に比して決してむづかしいものではないのです。

### I. 冠 詞 (das Artikel)

冠詞は、名詞の前に附して、その名詞の性、數、格を示します。

冠詞には (a) 定冠詞 (der bestimmte Artikel) と (b) 不定冠詞 (der unbestimmte Artikel) とがあります。

a. 定冠詞 (der bestimmte Artikel) の變化は次の通りです。

	單 數			複 數
	男性	女性	中性	
一 格	der	die	das	die
二 格	des	der	des	der
三 格	dem	der	dem	den
四 格	den	die	das	die

b. 不定冠詞 (der unbestimmte Artikel) の變化は次の通りです。

	單 數			複 數
	男性	女性	中性	
一 格	ein	eine	ein	不定冠詞は不定の一名詞に冠するものにつきなし
二 格	eines	einer	eines	
三 格	einem	einer	einem	
四 格	einen	eine	ein	

なほこゝにいふ四つの格は、獨逸語で der Kasus といふので、英語の case に當る。邦語の「てにをは」で示せば、次の様になります。

第一格 (der Nominativ) 邦語の「が」又は「は」を附する語、英語の主格に當る。

第二格 (der Genitiv) 邦語の「の」を附する語、英語の所有格に當る。

第三格 (der Dativ) 邦語の「に」を附する語、英語の補格に當る。

第四格 (der Akkusativ) 邦語の「を」を附する語、英語の目的格に當る。

なほこれ等の變化はあらゆる變化 (Die Declination) の基礎となるもので十分暗記を要します。

又、あらゆる變化を通じて、單數では、女性と中性は一格と四格と同形、女性の二格と三格は同形、複數は三性とも共通で、一格と四格は同形であると覚えて下さい。

### II. 名 詞 (der Substantiv)

獨逸語の名詞には、男性 (das Masculin), 女性 (das Femininum), 中性 (das Neutrum) の三種があります。

(a) 男性名詞に屬するものは、

1. der Frühling (春), der Februar (二月), der Süden (南), der Sonntag (日曜), der Donner (雷) などの四季、月、方位、七曜の名稱の全部並に空中現象名の大部分。
2. Der Helm (冑), der Tittich (翼) Jüngling (靜), der Palast (宮殿) などの如く、m, ich, ling, ast で終る語の全部、並に、der Himmel (天), der Anker (錨), der Boden (床), der Wald (森) などの如く、el, er, en に終る語と、一綴音からなる語の大部分。

(b) 女性名詞に屬するものは、

1. die Eibe (エルベ河), Donau (ダニユーブ河) などの河名の大部分。
2. die Königin (王妃), die Brauerei (醸造所), die Feigheit (卑怯), die Innigkeit (親密), die Bürgerschaft (人質), die bevegung (運動), die Philosophie (哲學), die Lektion (課目) などの様な、in, ei, heit, keit, schaft, ung, ie, ion に終る語の全部、並に die Treue (忠實), die Heimat (故郷), die Armut (貧困) などの様に、e, at, ut に終る語の大部分。

(c) 中性に屬する言葉は、

1. das Kind (子供), das Kabl (轆), Rom (羅馬), das Eisen (鐵) などの様な、幼少なる人畜の名稱全部、地理名、物質名、金屬名の大部分。
2. das Beten (祈), das Trinken (飲む事), das Aber (異論) などの様な、動詞の不定法その他の詞を名詞として使はれた語。
3. das Mädchen (少女), das Hündlein (小犬), das Rätsel (謎), das Drangsal (困難), das Altertum (古代), das Gesängns (牢獄) などの様な、sel, sal, tum, nis に終る語の大部分。

### 名 詞 の 變 化

名詞には數の單複と格、並に獨逸語特有の強變化 (stark Deklination), 弱變化 (schwache Deklination) 混合變化 (gemische Deklination) の三種の變化があります。今、これ等を次に示します。

但しこれは普通名詞のみのもので、固有名詞や、他國語から轉更した名詞は別です。

名 詞 の 強、弱、混合變化表

	單 數			複 數		
	1	2	3	1	2	3
強 變 化	1. —	( <u>"</u> )e	( <u>"</u> )e	( <u>"</u> )	( <u>"</u> )	( <u>"</u> )er
	2. —(e)s	( <u>"</u> )e	( <u>"</u> )e	( <u>"</u> )	( <u>"</u> )	( <u>"</u> )er

	3.	—(e)	( <sup>u</sup> )=n	( <sup>u</sup> )n	<sup>u</sup> -ern
	4.	—	( <sup>u</sup> )e	( <sup>u</sup> )	<sup>u</sup> -er
弱変化	1.	—		—(e)n	
	2.	—(e)n		—(e)n	
	3.	—(e)n		—(e)n	
	4.	—(e)n		—(e)n	
混合変化	1.	—		—(e)n	
	2.	—(e)s		—(e)n	
	3.	—(e)		—(e)n	
	4.	—		—(e)n	

上表の一は語幹を、<sup>u</sup> は語幹の母音に Umlaut (u 符) をつけることあるを、又括弧 ( ) 内の e は省略し得ることあるを示します。

なほ強変化に限り、複数に 1. 2. 3. の三つの變化式があります。

強変化の例：第一式 (單數) der Hund (犬が), des Hundes (犬の), dem Hunde (犬に), den Hund (犬を)

(複數) [1] die Hunde, der Hunde, den Hunden, die Hunde.

第二式 (單數) das Mädchen (少女が), des Mädchens (少女の), dem Mädchen (少女に), das Mädchen (少女を)

(複數) die Mädchen, der Mädchen, den Mädchen, die Mädchen.

第三式 (單數) das Dorf (村が), des Dorfes (村の), dem Dorfe (村に), das Dorf (村を)

(複數) die Dörfer, der Dörfer, den Dörfern, die Dörfer.

弱変化の例：(單數) der Mensch (人が), des Menschen (人の), dem Menschen (人に), den Menschen (人を)

(複數) die Menschen, der Menschen, den Menschen, die Menschen.

混合変化の例：(單數) das Ohr (耳が), des Ohres (耳の), dem Ohre (耳に), das Ohr (耳を).

(複數) die Ohren, der Ohren, den Ohren, die Ohren

#### 名詞變化についての注意

- 弱変化の單數は凡ゆる變化が一格と四格はすべて同形、又複數三格には原形に n なきものは凡て n を附加す。
- 女性變化は三變化を通じて單數では全然變化せず。
- is, nis に終る名詞は單數二格で isses, nisses になり、又複數では isse, nisse となり、in に終る名詞は複數では inn:n となります。例：der Iltis (鼯), des Illisses, die Illisse となります。
- 強変化に屬するものは、男性及中性名詞の大部分と女性名詞中、語尾に nis, sal に終るもの其他數十語(大抵一綴語に第一式變化に屬し Umlaut をとる)のみです。
- 弱変化に屬するものは、女性名詞が大部分と、一少部分の男性名詞(特に der Käfe を除き他の e に終る語の全部)で、此變化に屬する中性名詞はなし。
- 混合變化に屬するものは、Untertan (臣民), Better (従兄弟), Zins (利子), Auge (眼), Ohr (耳), Bett (床), Ende (終り), Dorn (刺), Hader (ボロ), Lorbeer (柱), Mast (マスト), Schmerz (苦痛), See (湖), Sporn (拍手), Staat (國家), Stachel (茨), Untertan (臣民), Herz (心臓), Insekt (昆虫) などの外數詞に過ぎません。

#### 固有名詞の變化

獨逸語の固有名詞 (der Eigenname) は次の様に特別の變化をします。

- 人名並に地名は單數二格で、語尾に s を附加します。但し s, sch, ss, r, z の語尾をもつ男性名詞は、' 符 (Apostroph) を附けるか、ens を附加します。但しこの代りに前置詞の von を附けるか、或は定冠詞の二格を用ひてもよろしいのです。

		一格	二格	三格	四格
例：	男名	Goethe (ゲーテ)	Goethes	Goethe	Goethe
	女名	Marie (マリー)	Marie(n)s	Marie	Marie
	地名	London (倫敦)	Londons	London	Lond n
	國名	Deutschland (獨逸國)	Deutschlands	Deutschland	Deutsch'and

Tiers' Vater (テイールの父)

Franz' Hut (フランツの帽子)=der Hut des Franz

### III. 代名詞 (das Pronomen)

代名詞は「私は」「彼は」といふ人稱代名詞 (das Personal pronomen) 「私の」「彼の」といふ物主代名詞 (das Possessivpronomen) 「此の」「あの」といふ指示代名詞 (das Demonstrativpronomen), 「誰か」「何か」といふ疑問代名詞 (das Interrogativpronomen), 「は……所の」といふ關係代名詞 (das Relativpronomen) 及び「人は」「誰か……ぬ」といふ不定代名詞 (das Indefinitpronomen) の六種に分れます。

#### (1) 人稱代名詞

人稱代名詞は、人又は事物を名詞の代りに用ひられるもので、これには次の三種の人稱があります。第一人稱 (erste Person) は ich (私は) wir (私達は) の様に話者自身を指すものをいひ、第二人稱 (zweite Person) は、du (汝は), ihr (汝等は) の様に對話者をさすものをいひ、第三人稱 (dritte Person) は、er (彼は), sie (彼女は), es (それは) の様に對話兩者の話題となる人又は物をいひます。

#### 人稱代名詞の變化

單數	第一人稱	第二人稱	第三人稱		
			男性	女性	中性
1. (格)	ich 私は	du (Sie) 汝は	er 彼は	sie 彼女は	es それは
2.	meiner 私の	deiner (Ihrer) 汝の	seiner 彼の	ihrer 彼女の	seiner それの
3.	mir 私に	dir (Ihnen) 汝に	ihm 彼に	ihr 彼女に	Ihn それに
4.	mich 私を	dich (Sie) 汝を	ihn 彼を	sie 彼女を	es それを
複數	1. (格) wir 私達は	ihr 汝等は	男・女・中性共通		
	2. unser 私達の	euer (Ihrer) 汝等の	sie 彼等は		
	3. uns 私達に	euch (Ihnen) 汝等に	ihrer 彼等の		
	4. uns 私達を	euch (Sie) 汝等を	ihnen 彼等に		
			sie 彼等を		

上表の中、第一人稱と第二人稱とは男女とも同一です。ただ第二人稱の du (汝) は、親か子に對してとか、或は極めて親しい同僚に於てのみ用ひ、遠慮ある一般の人々に對しては、Sie (常に s は大文字) を用ひます。但し手紙では Du, Ihr の様に du, ihr の最初の字を大文字に書いて敬稱にして用ひます。

なほ此人稱代名詞の第二格を用ひるのは、若干の動詞や數詞と合せ用ひる場合だけで、此意味を表すには、一般に次の物主代名詞を用ひます。

## 物主代名詞 (das Possessivpronomen) の変化

	男性	女性	中性
1. mein Bruder 私の兄弟は	deine (Ihre) Schwester 汝の姉妹は	sein Buch 彼の本は	
2. meines Bruders 私の兄弟の	deiner (Ihrer) Schwester 汝の姉妹の	seines Buches 彼の本の	
3. meinem Bruder 私の兄弟に	deiner (Ihrer) Schwester 汝の姉妹に	seinem Buche 彼の本に	
4. meinem Bruder 私の兄弟を	deine (Ihre) Schwester 汝の姉妹を	sein Buch 彼の本を	

  

1. meine Brüder 私の兄弟達は	deine (Ihre) Schwestern 汝の姉妹達は	seine Bücher 彼の本等は
2. meiner Brüder 私の兄弟達の	deiner (Ihrer) Schwestern 汝の姉妹達の	seiner Bücher 彼の本等の
3. meinen Brüdern 私の兄弟達に	deinen (Ihren) Schwestern 汝の姉妹達に	seiner Büchern 彼の本等に
4. meinen Brüder 私の兄弟達を	deine (Ihre) Schwestern 汝の姉妹達を	seine Bücher 彼の本等を

上記の表によつて見れば、物主代名詞は、単数と同一前にある時は、不定冠詞の様に變化し、複数名詞の前では、定冠詞の複数形の様に變化します。

なほ上表は物主者が単数の場合のもので、これが複数となる場合は、

mein (私の) は unser (私達の) となり、

deine (汝の) は euer (汝達の) となり

sein (彼の)、ihr (彼女の)、sein (その) は ihrer (彼等の) となります。

但し、物主代名詞そのものゝ数は語尾の變化に關係なく、後置名詞の数によつて變化するので、unser, euer, ihrer は、mein, deine, sein と全く同じく變化します。

例: \* unser Vater (私達の父は)、unseres Vaters (私達の父の)、unser(e)m Vater (私達の父に)、unser(e)n Vater (私達の父を)

## 指示代名詞 (das Demonstrativpronomen)

指示代名詞は、人や事物をさし示すために用ひられるもので、der (この、その、あの)、dieser (この)、jener (あの)、solcher (そんな)、derjenige (そんな)、derselbe (この様な、同一な)、selbst (そのもの) などがあります。此等の語は性によつて次の様に變化します。

	男性	女性	中性
der	dieser	jener	solcher
die	diese	jene	solche
das	dies(es)	jenes	solches

なほ複数の場合は男、女、中共通で、die, diese, jene, solche となります。

1-4 の格についても、der, dieser, jener, solcher の四つは、定冠詞と同一に變化しますが、derjenige, derselbe は少し異つて、男性単数で、1. derjenige, 2. desjenigen, 3. demjenigen, 4. denjenigen の様に、前の der- は定冠詞の如く、後綴は形容詞の如く變化します。

der, die, das は又、単数に名詞的に用ひられる場合がありますが、その場合にはこれ等の指示代名詞は次の様に變化します。

## 指示代名詞の名詞的變化

	男性	女性	中性	男・女・中性
單數	1. der	die	das	複數
	2. dessen	deren	dessen	deren (又は derer)
	3. dem	der	dem	denen
	4. den	die	das	die

複数第二格の derer は人を表す關係代名詞が後置する場合にのみ用ひられ、その他の場合には deren を用ひる。

上記の指示代名詞の中、dieser は「こちらのもの」(英語の this one)、jener は「あちらのもの」(英語の that one) の意味です

例 Napoleon und Nelson waren grosse Helden; dieser (Napoleon) war Engländer, jener Franzose. (ナポレオンとネルソンは大英雄であつた、此ちらは英國人であちらは佛蘭西人であつた)。

又 das は英語の it (それは) に當る意味に用ひます。

例: Das bin ich. (それは私だ)。 Das sind die Töchter meiner Tante. (それは私の叔母の娘です)。

## 關係代名詞 (das Relativpronomen)

關係代名詞は英語の who, which, what, that などの如く、それに先行する名詞或は代名詞を受けて、これを後文に連結する用をなす代名詞です。獨逸語のそれには、次の様なものがあります。

- (1) der, dis, das (それは……處の、英語の who, which, の意味)
- (2) welcher, welche, welches (それは……處の、英語の who, which)
- (3) wer (誰でも……所の、英語の who, which)
- (4) was (何でも……所の、英語の what, which)

上記の代名詞の中、der, die, das の變化は、前述の指示代名詞の名詞的變化に同じですが、たゞ複数二格は deren という形だけです。

welcher, welche, welches の語尾は定冠詞と同様に變化します。但し二格は單数で dessen (男)、deren (女)、dessen (中) となり、複数では deren となります。複数三格も denen です。

wer は wes, wessen, wem 又複数では wen 一語となります。

was は was, wessen, wessen (又は wem) そして中性では單複數共に was となります。

## 關係代名詞の用法

der..... と welcher..... とは同じ意味なれば、區別なく用ひられますが、人稱代名詞を受けるには der, die, das を用ひます。但し第三人稱を受ける場合は welcher でもよろしいのです。

此等の關係代名詞は、關係文章の先頭に置かれ、その關係する詞と性と数が一致する事を要しますが、格は一致しなくともよいのです。そしてその文章の動詞は末尾に、助動詞は最末尾に來ます。例: Der Herr, den ich begrüsst habe, ist mein Lehrer. (私が今挨拶した方は私の先生です)。

wer は人をうけ、was は物を受けます。前者は英語の who 或は the one which に當り、後者は英語の what, the thing which に當ります。なほ wer に對應した主文章には der を置き、was に對應した主文章には das を置きます。但し wer と der が共に一格の時は der が、又 was と das と同格の時は das が省略される場合が多いのです。例: Wer nicht hören will, (der) führen. (聞くことを欲しない者は痛い目にはあされねばならぬ)。

## 疑問代名詞 (das Interrogativpronomen)

獨逸語の疑問代名詞の主なるものは、wer? (誰れか=英語の what) と was? (何か=英語の what) です。後者の was は不變化詞ですが、前者は格に従つて、1. (即ち第一格) wer? (誰れか=who)、2. wessen? (誰れのか=whose)、3. wem? (誰れにか=to whom)、4. wen? (誰れをか=whom) と變化します。

- 例: Wer war diese Dame? 此の婦人は誰れですか?  
 Wessen Freunde sind es? 彼等は誰れの友人達か?  
 Wem gaben Sie es? 貴君は誰れにそれを與へるか?  
 Wen haben Sie gesehen? 貴君は誰れを見てゐるか?  
 Was hat sie getan? 彼女は何をしてゐるか?  
 Von was sprach sie? 彼女は何の噂をしてゐるか?

上記の例にても御覧の如く、wer 及びその變北形は、人に就て、又 was は物に就いて言はれます。疑問代名詞にはもう一つ、welcher? があります。これは「どちらか? (英語の which)」の意味で、關係代名詞の welcher と同じ變化をします。これは人にも物にも用ひます。

例: Welches war die Dame? (その婦人はどちらでしたか?)

Welches ist Ihrer Buch? (貴君の本はどれですか?)

#### 不定代名詞 (das Indefinitivpronomen)

不定代名詞は、數の確定してゐない、人又は事物を意味するもので、邦語の「ある人」(jemand), 「各人」(jedermann), 「あるもの」(etwas), 「少数者」(wenige), 「多數」(viele) などの意味ある言葉です。その幾つかを例示してみます。

Haben Sie etwas zu fragen? 何か尋ねることがありますか? (Have you anything to ask?)

Ich habe etwas für Sie. あなたに上げるものがあります。(I have something for you.)

Wenige wissen dies. これを知つてゐるものは少ない。(Few know this.)

Irgehd eine dieser Damen. 此等の婦人の誰れかが。(Anyone of these lady.)

Einer meiner Freunde. 私の友人の一人。(One of my friend.)

Jeder von dem Knaben. 子供達の誰れもが。(Each one of the boy.)

Wo sind die anderns? 他の人達は何處にゐますか? (Where are the others.)

Beide waren hier. 二人共にゐた。(Both were here.)

Alle umsteigen! すべては變る。(All change!)

Keines von seinen Büchern. 彼の本のどれもが……ない。(None of his book.)

Niemand sagte mir das. 誰れも私にそれを言はない。(Nobody said that to me.)

Das ist nichts für uns. これは私達にとつて何でもないことだ。(That is nothing for me.)

終りの三つの詞、keines, niemand, nichts は否定の意味を合せ持ちます。なほこれ等の不定代名詞は不變化詞です。

#### IV. 形容詞 (das Adjektiv)

形容詞は人及び事物を示す名詞の性質形狀をあらはす言葉で、その使用法は二つに分れます。

1. 附加語的用法 (直接名詞を形容する場合): Die schöne blume. (美しき花)

2. 述語的用法 (動詞に附隨して名詞を形容する場合): Die blume ist schön. (花は美しい)

形容詞の語尾變化が行はれるのは、前者の附加語的用法の場合です。

この附加語的意味の形容詞の變化は名詞の様に、一定不變のものでなく、又物主代名詞の様に後続名詞によつてのみ左右されることもなく、前にくる詞の有無並にその種類によつて先づ獨逸語特有の變化をします。それは次の三つの變化です。

(1) 強變化 (starke Deklination)

これは形容詞の前に何等の先行詞もないか、或はあつても語尾變化をしない詞である時。

例: Grosser Tisch. (大きい机)

(2) 弱變化 (schwache Deklination)

形容詞の前に定冠詞或はこれと同じ變化をする詞のある時。

例: Der gute Mensch. (よき人)

(3) 混合變化 (gemische Deklination)

形容詞の前に不定冠詞或はこれと同變化の詞ある時。

例: Mein alter freund. (私の年老つた友人)

附加的形容詞の強・弱・混合變化表

單數	強變化			弱變化			混合變化		
	男性	女性	中性	男性	女性	中性	男性	女性	中性
1.	-er	-e	-es	-e	-e	-e	-er	-e	-es
2.	-en (es)	-er	-en (es)	-en	-en	-en	-en	-en	-en
3.	-em	-er	-em	-en	-en	-en	-en	-en	-en
4.	-en	-e	-es	-en	-e	-e	-en	-e	-es

  

複數	男・女・中性			男・女・中性			男・女・中性		
1.	-e			-en			-en		
2.	-er			-en			-en		
3.	-en			-en			-en		
4.	-e			-en			-en		

上表の一は形容詞の原形を表はします、その原形に各個の場合の語尾を附加するのです。又強變化單數の男性と中性の( )内の es は、en の代りにこれを用ひてもよいことを示します。

#### 形容詞の級差

形容詞には英語、佛蘭西語と同様に、原級 (der Positive), 比較級 (der Comparativ), 最上級 (der Superlativ) の三つの變化があります。

例: (原級) Mein Haus ist gross. 私の家は大きい。

(比較級) Ihr Haus ist grösser als Mein Haus. 貴君の家は私の家より大きい。

(最上級) Ihr Haus ist am grössten. 彼女の家は一番大きい。

上記の例の様に、原級は形容詞本來の形で、比較級はそれに er (同時に先行する語幹の母音に umlaut (¨) を附すること多し) を附加し、最上級には (e)st を附加します。それは英語で、er を加へ、est を加へると同じです。

なほ比較級及び最上級の形容詞は、上例の様に名詞の後に置かれた時は原形の形容詞の場合と同じく不變化ですが、各詞の前に置かれた時は、原形の形容詞と同じ様に變化します。例: Meine grosser Hut. (私の大きい帽子), Ein grösserer Hut (一つのもつと大きい帽子), Die kleinste Feder. (もつとも小さいペン)。

なほ次の様な形容詞は上記の規則と違つた差等の變化をします。

gut (よい),	besser (よりよい),	am besten (最もよい)
hoch (高い),	höher (より高い),	am höchsten (最も高い)

## V. 動詞 (das Berbum)

動詞は人及び物の状態及動作を述べる言葉で、これを二大別して独立動詞と助動詞とします。

独立動詞は又、「輝く」(glänzen)とか「走る」(laufen)とかの様に、その動詞だけで、補足語を要せずに意味の確定する主語動詞と、それから「要する」(bedürfen)、「感謝する」(danken)の様に補足語を用ひて、意味が確定する補足語動詞とに分ちます。

補足語動詞の中には、二三格の補足語を要するもの(上記の二例はそれ)と、「愛する」(lieben)、「喰べる」(essen)の様に四格の補足語を要するものがあります。前者の二三格の補足語を用ひる補足語動詞と主語動詞とは共に自動詞の範囲に入ります。

又助動詞には、「ある」(sein=to be)、「持つ」(haben=to have)、「なる」(werden=to become)の様な時の助動詞と、「出来る」(können=to can)、「敢てする」(durfen=to dare)、「してよい」(mögen=to may)、「欲する」(wollen=to will)、「余儀なくする」(sollen=to be obliged, to shall)、「強制される」(müssen=to be compelled)などの説話の助動詞の二種があります。

## 動詞の不定法 (Infinitiv)

動詞の不定法は、すべての動詞の根幹の形であつて、これは名詞的の意味をもちます。辞書にはこの不定法だけがのつてゐるのです。獨逸語の不定法は英語などと異つて極めて統制的で、どの動詞の不定法も、語尾に en をもつてゐるのです。即ち動詞の語幹+en=不定法。

例: haben (持つ), sehen (見る), machen (作る)

但し sein (ある) といふ動詞は例外的で e がなく、n だけが語尾にあります。

なほ過去不定法 (Infinitiv des Perfects) といふものがあります。これも前の現在不定法と同じく、人稱及び性数に關係なく状態及び動話を表現する形で、それはその動詞の過去分詞の後に助動詞の sein か haben の現在不定法を附加して作ります。

例: geschlafen haben (眠つて)=schlafen の過去分詞+haben

gegangen sein (行つた)=gangan の過去分詞+sein

## 分詞 (Partizip)

分詞は動詞の意味を形容詞的に現はすもので、これにも現在分詞 (Particip des Präsens) と過去分詞 (Particip des Perfekts) とがあります。

前者は英語の現在進行形と同じく、動詞の語幹に end (=ing) を附加して作ります。

現在分詞: sprechend (話しつゝ=speaking), wartend (待ちつゝ=waiting)

後者の過去分詞は、動詞の變化形に用ひられること、とても多いもので、その構成には二つの形があります。

(1) ge+動詞の語幹+(e)t: gesagt—sagen (告げる) の過去分詞

(2) ge+動詞の語幹+en: gesungen—singen (歌ふ) „

上記の變化の (1) には弱變化動詞の形です。

又 (2) の語幹の母音は基礎形のそれと異なる場合が多いのです。

## 動詞の三つの表現形式 (直説法と接續法と命令法)

動詞の表現には、事實を事實として述べる表現法、即ち直説法と、事實にあらざることを假定し、或は願望し、或は疑懼し、或は逆に想像して述べる場合とがあります。これを接續法或は可能法 (der Konjunktiv) といひます。

例: (直説法) Ich kann sprechen nicht richtig. (私は正確に話せない) (事實)

(接續法) Er wünscht, dass Sie richtig sprechen. (彼は、あなたが正確に話すことを望んでゐる。) (願望)

更にもう一つの方式は命令法 (der Imperativ) で、これは文字通り人に命令を與へる場合の表現です。獨逸語では第二人称の命令法は動詞の不定法のあとに Sie (汝) を置いて作ります。

例: Kommen Sie! (来い) Fragen Sie ihn nicht! (彼に尋ねるな)

## 動詞の時相 (die Zeitform)

動詞にはその状態、動作を表現する時期に従つて幾つかの時に分れます。獨逸語では次の六つの時相があります。

(1) 現在 (das Präsens) (2) 過去 (das Imperfekt) (3) 現在完了 (das Perfect)

(4) 過去完了 (das Plusquamperfekt) (5) 第一未來 (Futur I) (6) 第二未來 (Futur II)

これ等の時相に従つて、動詞はその形を變へますが、現在と過去は動詞の不定法の語尾並に語幹の變化でこれを現し、現在完了と過去完了は助動詞 sein (=to be) 又は haben (=to have) の變化に原動詞の過去分詞を附加し、又第一と第二未來の時相は、werden (=to will) の變化に同じく原動詞の過去分詞を附加して表はします。

## 弱變化 (schwache Konjugation) と強變化 (starke Konjugation)

動詞にも弱變化動詞と強變化動詞といふものがあります。前者は時相を語尾の變化によつて表現するもので、弱變化動詞は即ち規則的變化動詞です。

これに對して強變化動詞は不規則變化動詞とも呼ぶべきもので、語幹母音を變化させるのです。

なほ動詞變化の基礎となるものは、不定法 (der Infinitiv) と過去 (der Imperfect) と過去分詞 (das Partizip des Perfekts) とで、これを動詞變化の三基本形 (drei Grundformen 又は das Averbs) といひます。

次に弱變化及び強變化の動詞の基本形を現在時と合せて示します。

	不定法	現在	過去	過去分詞
弱變化	lieben (愛する)	(ich) liebe	(ich) liebte	gelibt
	reden (語る)	„ rede	„ redete	geredet
強變化 1.	lesen (讀む)	„ lese	„ las	gelesen
2.	helfen (助ける)	„ helfe	„ half	geholfen
3.	spinnen (紡ぐ)	„ spinne	„ spann	gespinnen
4.	singen (歌ふ)	„ singe	„ sang	gesungen
5.	greisen (つかむ)	„ greise	„ griss	gegrissen
6.	schreiben (書く)	„ schreibe	„ schrieb	geschrieben
7.	schlafen (眠る)	„ schlafe	„ schrief	geschlafen
8.	schieben (押す)	„ schiebe	„ schab	geschaben
9.	schwelzen (押す)	„ schwelze	„ schab	geschaben
10.	schlagen (打つ)	„ schläge	„ schlug	geschlagen

上記の 1 から 10 までの強變化 (不規則變化) の變化する動詞の語幹母音を表にて示すと次の如くなります。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
不定法	e (i, ie)	e (o, ä)	i	i	ei	ei	a (o, u, au, ei)	ie (au, ü)	e (i, a, ä, ö)	a
過去	a	a	a	a	i	ie	ie	o	o	u
過去分詞	e	o	o	u	i	ie	a (o, a, au, ei)	o	o	a

- この他 1 の括弧内の變化をする動詞は *biten* (乞ふ), *biegen* (曲げる) です。  
 2 の括弧内 變化をする動詞は *kommen* (来る), *gebären* (生む) です。  
 7 の括弧内の變化をする動詞は *stossen* (衝く), *rufen* (呼ぶ), *laufen* (走る), *heissen* (名付ける) です。  
 8 の括弧内の變化をする動詞は *fangen* (取る), *küren* (選ぶ) です。  
 9 の括弧内の變化をする動詞は *klimmen* (攀る), *erschallen* (響く), *gären* (醗酵する), *schwören* (誓ふ) です。

以上の二變化動詞の他に、更に不規則に變化する動詞があります。

- (1) *brennen* (燃える), *braunte*, *gebraunt*. なおこれと同じ變化のものには *kennen* (知る), *nennen* (名のる), *rennen* (走る), *senden* (送る), *wenden* (轉ずる) などがあります。  
 (2) *bringen*, *brachte*, *gebracht*, *denken* (考へる) もこれと同變化です。  
 (3) *sein* (ある), *war*, *gewesen*; *haben* (持つ), *hatte*, *gehabt*; *tun* (爲す), *tat*, *getan*; *wissen* (知る), *wusste*, *gewusst*; *gehen* (行く), *ging*, *gegangen*; *stehen* (立つ), *stand*, *gestanden*, 又 *be*, *emp*, *ent*, *er*, *ge*, *ver*, *zer* なる前綴又は *ieren* なる後綴をもつもの、並に *miss*, *durch*, *hinter*, *über*, *un*, *unter*, *voll*, *wieder*, *wider* なる前綴を有する組立動詞で、此の綴に強聲のないものは如何なる變化でも、*ge* なる前綴を附けません。例: *bezahlt* (bezahlen), *empfangen* (empfangen), *misslungen* (misslingen), *vollzogen* (vollziehen)

### 動詞の位置

一つのまとまつた思想を表すには、最も簡単な形式でも、主語 (das Subjekt) と述語 (das Prädikat) が必要です。主語には通常名詞或は代名詞が用ひられ、述語に主動詞が用ひられます。

- 例: *Die Relke* (主語) *blüht* (述語). (石竹が咲いてゐる)  
*Ich* (主語) *spiele* (述語). (私は遊んでゐる)

以上は一つの動詞が述語となつた場合ですが、

*Der Sommer ist heiss*. (夏は暑い), *Ich bin ein Schüler* (私は生徒です) の様な場合では、述語は一つの動詞 (*ist* 或は *bin*) と、一つの形容詞 (*heiss*) 或は名詞 (*ein Schüler*) が合成して一つの述語を作つてゐます。

だが兩者の場合を通じて、語の配置は主語+動詞(+形容詞或は名詞) となつて、動詞は常に主語の直後に置かれます。

併しこれが疑問文となる時は、

*Blüht die Relke?* (石竹は咲いてゐるか), *Spielt Ich?* (私は遊んでゐるか), *Ist der Sommer heiss?* (夏は暑いか), *Bin ich ein Schüler?* (私は生徒か) の様に、動詞+主語(+形容詞或は名詞) の配置となります。

又否定文では、

*Ich spiele nichts*. (私は遊んでゐない), *Ich bin ein Schüler nichts*. (私は生徒でない) の様に、*nicht* といふ否定語を最後に置きます。これは否定疑問文でも同じです。例: *Verstehen Sie es nicht?* (それが分りませんか)

但し助動詞が用ひられたる場合は、その助動詞が、前の動詞の位置即ち主語の直後に、又疑問文では主語の直前にあつて、動詞の過去分詞は、兩者共に文の最後に置かれるのが規則です。

- 例: *Sie hatte* (助動詞) *die Türe geöffnet* (過去分詞). 彼女はドアを開けた。

*Haben* (助動詞) *Sie das Geld nicht gehabt* (過不分詞)? 君は金を持つてゐないか。  
 なお後者の場合の如く *nicht* が用ひられた場合は、それは常に過去分詞の前に來ます。

### 動詞の時 (Die Zeitformen der Verben)

第一に直説法から説明します。

#### 現在時 (das Präsens)

獨逸語の動詞の現在形は、(1) 現在の状態動作、並に (2) 英語では進行形を用ひる、現在繼續しつゝある動作を表はすにも用ひます。例: *Die Rose blüht*. (薔薇が咲いてゐる) *Sie tut nichts*. (彼女は何もしてゐない) 後者は英語では、進行形を用ひて、*She is doing nothing* といふ所です。

(3) 過去から引續いて現在まで繼續してゐる行爲をいふにも獨逸語では現在を用ひます。例: *Wie lange lernen Sie schon Deutsch?* (もうどの位あなたは獨逸語を習つてゐますか)。

この場合英語では *How long have you already studied German?* と過去完了の形を用ひます。

(4) 將來の覺悟を語る時、及び未來の副詞ある時は、未來に代用されます。例: *Wir überschreiten gewiss diesen Berg* (私達はきつと此山を越える), *Morgen komme ich wieder*. (明日また參ります)。なおこの様に副詞が前にある場合には動詞はそれにつゞきます。

(5) 二人稱の場合には現在は命令を意味することもあります。例: *Du gehst sogleich in die Schule*. (汝はすぐに學校へ行け)

その他に、歴史、物語に於て、過去の出来事を強調する場合には現在を用ひることが往々あります。

#### 現在變化の構成

獨逸語動詞の現在時は、原則として、不定法の語尾 *en* を單數第一人称では *e*, 第二人称では *st*, 第三人稱では *t* と、又複數第一人称では *en*, 第二人称では *t*, 第三人稱では *en* と代へて作ります。

例: *kommen* (来る) の現在時

*ich komme* (私は来る)    *du kommst* (お前は来る)    *Er kommt* (彼は来る)  
*wir kommen* (私達は来る)    *Ihr kommt* (あなた達は来る)    *Sie kommen* (彼等は来る)

併し語幹の終りの *t* のものは、語尾の *en* を單數の第二人称では *est*, 同第三人稱では *et*, 複數の第二人称では *et* と *e* を入れて作ります。

例: *arbeiten*

*Ich arbeite* (私は働く)    *du arbeitest* (お前は働く)    *er arbeitet* (彼は働く)  
*wir arbeiten* (私達は働く)    *Ihr arbeitet* (あなた方は働く)    *sie arbeiten* (彼等は働く)

普通に「貴君」(*Sie* といふ大文字を用ふ) といふ第二人称單數にも複數形を用ひます。

併し強變化動詞では此場合にも語幹の變化があります。

例: *sprechen* (話す)

*ich spreche* (私は話す)    *du sprichst* (お前は話す)    *er spricht* (彼は話す)  
*wir sprechen* (私達は話す)    *Ihr sprecht* (あなた方は話す)    *sie sprechen* (彼等は話す)

なお第三人稱單數の動詞は *sie* (彼女) でも *es* (それ) でも *er* (彼) と同じ形です。

一般の獨逸語動詞の現在は以上の如くですが、たゞ *sein* (ある、英語の *to be*) は特殊の形をとります。

*sein* (ある) の現在時

*ich bin* 私はある    *du bist* お前はある    *er (sie, es) ist* 彼(彼女、それ)はある  
*wir sind* 私達はある    *Ihr (Sie) sind* あなた方(あなた)はある    *sie sind* 彼等はある

過去時 (das Imperfekt)

独逸語動詞の過去時は、(1) 過去の継続せる動作を現在に關係なく述べる場合、特々二つ以上の動作が同時に起る場合に用ひます。 Als der Weltkrieg ausbrach, war er in Berlin. (世界戦争の起つた時、彼は柏林にゐた。)、又歴史的叙述に用ひられます。 Es war einmal ein edler König. (昔々氣高き王がゐた。)

(2) 二つの過去の動作の一つが、他の動作の起つた時まで継続してゐた場合(この場合には英語では過去完了の進行体を用ひますが)にも、獨逸語では過去を用ひます。例: Ich martete schon drei Stunden auf ihn, als er ankam (彼が到着した時には、私は三時間も彼を待つてゐた。)

(3) 過去の動作常習を表はす時。例: Ich las den Goethe. (私は曾てゲーテの作を読んだ。)

(4) 過去完了又は第二未來に代用される事もあります。例: Als er das hörte (=gehört hatte), erschrak er. (彼がそれを聞いた時に驚愕した。)

過去時の構成

獨逸語の過去時は、弱變化動詞では不定法の語尾を、單數の第一人稱には **te**、第二人稱には **test**、第三人稱には **t** と代へ、又複數では第一人稱に **ten**、第二人稱に **tet**、第三人稱に **ten** と代へます。

(1) 弱變化動詞 sagen (言ふ) の過去

ich sagte 私は言つた du sagtest お前は言つた er (sie es) sagte 彼(彼女、それ)は言つた  
wir sagten 私達は言つた Ihr (Sie) sagtet あなた方(あなた)は言つた sie sagten 彼等は言つた

又強變化動詞では單數の第一人稱と第二人稱は語尾をつけず、第二人稱には **st** を、複數は弱變化動詞と同じ語尾をつけます。

但し、單數の第二人稱に、**est** と **e** を加へてつけるものあり、同じく複數の第二人稱にも、**et** と **e** を加へてつけるものもあります。

(2) 強變化動詞 sprechen (話す) の過去

ich sprach 私は話した du sprachst お前は話した er (sie, es) sprach 彼(彼女、それ)は話した  
wir sprachen 私達は話した Ihr (Sie) sprachet あなた方(あなた)は話した sie sprachen 彼等は話した

上述の現在時と過去時との二つが、獨逸語の直説法では、單獨で、即ち助動詞を用ひないで構成される時相です。従つてこれと過去分詞は各時相構成の基礎となるもので、他の二相は、助動詞 sein, haben 或は werden のこの變化に、過去分詞を附加して作ります。それ故次に複合時相構成に必要な重要な動詞 sein と haben の總變化を表示します。

動詞 SEIN (ある) の變化表

	現在	過去	現在完了	過去完了	第一未來	第二未來
直説法	Ihr bin	war	bin gewesen	war gewesen	werde sein	werde gewesen sein
	Du bist	warst	bist „	warst „	wirst „	wirst „ „
	Er (sie, es) ist	war	ist „	war „	wird „	wird „ „
	Wir sind	waren	sind „	waren „	werden „	werden „ „
	Ihr seid	waret	seid „	waret „	werdet „	werdet „ „
	Sie sind	waren	sind „	waren „	werden „	werden „ „

	第一約束法			第二約束法		
約束法	Ich	würde	sein	würde	gewesen	sein
	Du	würdest	„	würdest	„	„
	Er	würde	„	würd	„	„
	Wir	würden	„	würden	„	„
	Ihr	würdet	„	würdet	„	„
	Sie	würden	„	würden	„	„

	現在	過去	現在完了	過去完了	第一未來	第二未來
接續法	ich sei	wäre	sei gewesen	wären gewesen	werde sein	werde gewesen sein
	du seiest	wärest	seiest „	wärest „	wirst „	wirst „ „
	er sei	wäre	sei „	wäre „	werde „	werde „ „
	wir seien	wären	seien „	wären „	werden „	werden „ „
	ihr seiet	wäret	seiet „	wäret „	werdet „	werdet „ „
	sie seien	wären	seien „	wären „	werden „	werden „ „

命令法 Sei (居ろ) Seien wir (ゐようぢやないか) Seid 又は Seien Sie (居給へ)  
不定法: 現在 sein 過去 gewesen sein  
分詞: 現在 seiend 過去 gewesen 現在完了 gewesen sein

動詞 HABEN の變化

	現在	過去	現在完了	過去完了	第一未來	第二未來
直説法	Ich habe	hatte	habe gehabt	hatte gehabt	werde haben	werde gehabt haben
	Du hast	hattest	hast „	hattest „	wirst „	wirst „ „
	Er hat	hatte	hat „	hatte „	wird „	wird „ „
	Wir haben	hatten	haben „	hatten „	werden „	werden „ „
	Ihr habt	hattet	habt „	hattet „	werdet „	werdet „ „
	Sie haben	hatten	haben „	hatten „	werden „	werden „ „

	第一約束法			第二約束法		
約束法	Ich	würde	haben	würde	gehabt	haben
	Du	würdest	„	würdest	„	„
	Er	würde	„	würde	„	„
	Wir	würden	„	würden	„	„
	Ihr	würdet	„	würdet	„	„
	Sie	würden	„	würden	„	„

	現在	過去	現在完了	過去完了	第一未來	第二未來
接續法	Ich habe	hätte	habe gehabt	hätte gehabt	werde haben	werde gehabt haben
	Du habest	hättest	habest „	hättest „	wirst „	wirst „ „
	Er habe	hätte	habe „	hätte „	werde „	werde „ „
	Wir haben	hättens	haben „	hätten „	werden „	werden „ „
	Ihr habet	hättet	habet „	hättet „	werdet „	werdet „ „
	Sie haben	hätten	haben „	hätten „	werden „	werden „ „

命令法:	Habe (持つ)	Haben wir (持たうちやないか)	Habt 又は Haben Sie (持ち給へ)
不定法:	現在 haben	過去 gehabt haben	
分詞:	現在 habend	過去 Gehabt	現在完了 Gehabt habend

## 現在完了時 (das Perfekt)

獨逸語の現在完了時は(1)話される時の前に完了せる事柄や状態、又は過去の動作の結果が今日に及んでゐる事を表はすに用ひます。例: Ich habe die Zeitung schon gelesen. (私はもう新聞を読んで了つた。) Kolumbus hat Amerika entdeckt. (コロンブスは亞米利加を發見した。)

(2) 第二未來時の形は冗慢なので、その代りに現在完了時を用ひる事があります。例へば Wenn du hier angekommen sein wirst (第二未來形), werde ich dich besuchen. (君が當地に着いたらお訪ねしませう)の前句よ、Wenn du hier angekommen bist (現在完了時)と代へることが出来ます。

だが總じて、獨逸語の現在完了時と過去の差別はないので、前に過去時に説明した場合にも、殆んど現在完了時を用ひることが出来るのです。特に會話に於てはさうです。

- 例: 私は昨日それを見た。=Ich sah es gestern. (過去時)  
 " =Ich habe es gestern gesehen. (現在完了時)  
 彼女は君と來ましたか? =Kam sie mit Ihnen? (過去時)  
 " =Ist sie Ihnen gekommen? (現在完了時)

## 現在完了時の構成

現在完了時は、助動詞 sein 或は haben の現在時にその動詞の過去分詞を附加して作ります。

例: machen (する)の現在完了時

Ich habe gemacht, du hast gemacht, er hat gemacht  
 wir haben gemacht, ihr habt gemacht, sie haben gemacht

## 過去完了時 (das Plusquamperfekt)

過去完了時は、過去の状態又は動作が起る前に、又はその時に、他の状態又は動作が完了したことを表はします。例: Nachdem die Sonne aufgegangen war, stand er auf. (太陽が上つてから、彼は起きた。) Ich hatte schon die Novelle gelesen, als er mich gestern besuchte. (彼が昨日私を訪ねてきた時は、私は小説を読んで了つた。)

## 過去完了時の構成

獨逸語の過去完了時は助動詞 sein 或は haben の過去時にその動詞の過去分詞を附加して作ります。

例: gehen (行く)の過去完了時

Ich war gegangen, du warst gegangen, Er war gegangen  
 wir waren gegangen, ihr waret gegangen, sie waren gegangen

## 第一未來 (Futur I)

獨逸語の第一未來時といふのは、(1) 未來に起る動作或は状態を表はします。例: Es wird bald regner (間もなく雨が降る)。(2) 未來に結果を及ぼす眞理の叙述する場合、例: Nur grosse Seelen wird das ent'ernte Gute bewegen. (偉大なる心のみはるかな善を導く)。(3) 推測を述べる場合、例: Der Hund wird fünf Jahre alt sein. (此犬は五才でせう。)又(4) 未來に及ぼす命令の場合にも使ひます。例: Du wirst hier bleiben! (君は此處に待つてゐるんだぞ。)

## 第一未來の構成

第一未來時は助動詞 werden の現在時にその動詞の不定法を附加します。

例: sagen (告げる)の第一未來時

Ich werde sagen, du wirst sagen, er wird sagen  
 wir werden sagen, ihr werdet sagen, sie werden sagen.

## 第二未來時 (Futur II)

第二未來時は、(1) 未來のある時以前にある状態或は動作の完了した事を表はします。例: Ich werde den Brief geschrieben haben, wenn er kommen wird. (彼が來る時には、私は手紙を書いて了つてゐるだらう。)(2) 過去の事實に因する想像を表はすに用ひます。例: Er wird wohl der Täter gewesen sein. (多分彼が下手人だつたらう。)かうした場合には多く wohl (恐らく、英語の I suppose の意味ある副詞)を併せ用ひます。なほその構成は werden の現在時+動詞の不定法+haben (或は sein)です。

## 接續法 (der Konjunktiv)

接續法は又可能法 (die Möglichkeitsform)ともいひ、事實そのまゝを直截に言明する直説法に對して、願望、疑義あること、事實に反した假定等を表現するに用ひます。

例: Er wünscht, dass sie richtig sprechen. (彼は君が正しく話すことを望んでゐます。)

Sie erreiche die Stadt, wenn sie schneller gegangen. (彼女がもつと早く歩いたら、町に到着したらうに。)此文の事實は「彼が早くなかつたので、町に着かなかつた」のであります。

なほ接續法は大體 damit, auf, dass (共に「のために」の意味=英語の in order that)の後に、又は wenn (若しも、英語の if)に始まる文章の中に、或は als ob, als wenn (恰も……の様に、英語の as if)によつて始まる比較的言辭の中に用ひられることが多いのです。

但し以上の様な場合でなくとも、獨逸語の接續法は客觀的のものをいふ場合にも用ひます。

例: Er erklärte, er habe keine Papiere. (彼は紙がないと宣言した。)

Wir fragten, wo er gewesen sei. (私達は彼のゐた場所を尋ねた。)

## 接續法の時相の構成

接續法の時相は直説法と同じく、現在、過去、現在完了、過去完了、第一未來、第二未來の六つがあります。

例: sagen の接續法時相

現在時	過去時	現在完了	過去完了	第一未來	第二未來
Ich sage	sagte	habe gesagt	hätte gesagt	werde sagen	werde gesagt haben
Du sagst	sagtest	hast "	hättest "	wirst "	wirst "
Er sagt	sagte	hat "	hätte "	wird "	wird "
Wir sagen	sagten	haben "	hätten "	werden "	werden "
Ihr sagt	sagtet	habet "	hättet "	werdet "	werdet "
Sie sagen	sagten	haben "	hätten "	werden "	werden "

## 約束法 (der Konditionalis)

約束法といふのは、概括的にいへば接續法の一様です。たゞ後者に於ては、「ある事が、かうなつてゐたら、かうなつたらう」といふ、可能的な意味を強調するに對して、約束法では、「若しある事が、若しかうしたら、かういふ結果を示す」とその條件と結果の必然的な因果關係を明示するのであります。併しその



何れもが、現存の事実を遊離した事を言明する点については同じです。

約束法には第一約束法と第二約束法とがあつて、前者は現在の約束的叙述を、又後者は過去の約束的叙述に用ひます。

第一約束法の例: Was würden Sie tun, wenn Sie krank wären?—Ich würde den Arzt kommen lassen. (若し君が病氣になつたらどうしますか?—私は醫師を迎へるでせう。)

第二約束法の例: Was würden Sie getan haben, wenn Sie Durst gehabt hätten?—Ich würde getrunken haben. (若し君が渴いてゐたなら、どうしたらうか?—私は飲んだことせう。)

なほ表面的の意味からいへば第一約束法は接続法の過去と、第二約束法は接続法の過去完了と全く同じです。

### 約束法の構成

第一約束法は助動詞 werden の接続法過去にその動詞の現在不定法を附加します。

第二約束法は werden の接続法過去に過去不定法を附加します。(前掲の sein 並に haben 變化表参照。)

### 動詞の種類

#### (1) 自動詞及び他動詞 (Intransitive und transitive Verben)

動詞には自動詞と他動詞との二種があります。自動詞はその働きが他に及ばない動詞で、sein (ある)、bleiben (止まる)、liegen (横はる)、gehen (行く)、kommen (来る)、schlafen (眠る)、sterben (死ぬ)、stehen (立つ)、sitzen (坐る) は何れも、その働きが他に及ばないもので自動詞です。併し lieben (愛する)、loben (褒める)、sehen (見る)、hören (聞く)、sindern (見出す) 等は何れも、'何かを' 或は '誰れかを' 愛したり、見たりするので、この動詞の働きが他へ及ぶので他動詞です。

#### (2) 他動詞の能動及び受動 (Aktiv und Passiv)

他動詞はその働きが及ぼす対象があつて、その意味を完成するのでこの対象に當る語を、獨逸語では der Akkusativ (第四格、即ち英語の目的格) といひます。例へば、Der Lehrer lobt den Schüler. (先生が生徒を褒める) といふ短文では、Der Lehrer が主辭 (即ち第一格) で、den Schüler が対象 (即ち第四格) です。この様に一つの主辭の働きが対象へ及ぼす動詞の形を能動式といふのです。

併しこの例は、Der Schüler wird von dem Lehrer gelobt. (生徒が先生に褒められる) と書きなほすことが出来ます。この様に対象が、第一格となつて、動詞の働きが逆に及ぼされる形を受動式といひます。

獨逸語の動詞の受動形は自動詞 werden の變化形にその動詞の過去分詞を附加して作ります。即ち

- |            |              |         |                                |
|------------|--------------|---------|--------------------------------|
| 1) 受動形の現在  | = werden の現在 | + 過去分詞: | ich werde gelobt.              |
| 2) " 過去    | = " 過去       | + " :   | du wurdest gelobt.             |
| 3) " 現在完了  | = " 現在完了+    | " :     | er ist gelobt worden.          |
| 4) " 過去完了  | = " 過去完了+    | " :     | wir waren gelobt worden.       |
| 5) " 第一未來  | = " 第一未來+    | " :     | ihr werdet gelobt werden.      |
| 6) " 第二未來  | = " 第二未來+    | " :     | sie werden gelobt werden sein. |
| 7) " 第一約束法 | = " 第一約束法+   | " :     | ich würde gelobt werden.       |
| 8) " 第二約束法 | = " 第二約束法+   | " :     | du würdest gelobt worden sein. |
| 9) " 命令法   | = " 命令法+     | " :     | werde gelobt! werdet gelobt!   |

なほ現在完了、過去完了、第二未來等では gelobt geworden と ge が重なる語調の悪さを避けるために geworden を省きます。

#### (4) 再歸動詞 (Reflexive Verben)

再歸動詞といふのはその働きの対象が自分自身である場合で、即ち動詞の主語も對語も同じものであるものです。sich gewöhnen (自己を養はす、即ち着物をきる)、sich bemühen (自らを努める、即ち努力する)、sich verteidigen (自らを守る、即ち自衛する)、sich freuen (自己を喜ばす、即ちたのしむ) など何れもその例です。

再歸動詞はその性質上他動詞で、第四格をその對語とするものですが、又稀には第三格を對語とするもの、又特殊の補語を用ひて自動詞を再歸動詞的に用ひるものもあります。

Du schmeichelst dir sondergleichen. (君は正類なく已惚れてゐる) は前者の例。

Du spottest deiner (君は自嘲する) は後者の例です。

### 再歸動詞の構成

再歸動詞は單數の第一人稱には mich, 第二人稱には dich, 第三人稱には sich, 又複數の第一人稱には uns, 第二人稱には euch, 第三人稱には sich を動詞の次に附加して作ります。

例: sich freuen (住ぶ) の變化

現在 Ich freue mich, du freust dich, er freut sich  
wir freuen uns, Ihr freut euch, sich freuen sich

現在完了 Ich habe mich gefreut, du hast dich gefreut, er hat sich gefreut  
wir haben uns gefreut, ihr habt euch gefreut, sie hatten sich gefreut

#### (5) 非人稱動詞 (Unpersönliche Verben)

非人稱動詞は英語の it rains (雨が降る)、it clouds (雲がある) など、等しく、獨逸語でも、天候や自然現象を意味するものに大抵用ひられるので、その主語は es (英語の it) のみです。

例: Es regnet (雨が降つてる)、es blitzt (稲光りがする)、es donnert (雷がなる)、es hagelt (氷つてる)、es schneit (雪が降る)、es friert (霜が下りる)、es ist Sonnenschein (太陽が輝いてゐる)、es ist schönes, schlechtes, Weiter (天候がよい、悪い)、es ist warm, kalt (暑い、寒い)。

動詞が非人稱的に用ひられるのには、なほ下の例の様な場合があります。

Es hungert mich (私は飢えてゐる)、この mich の代わりに dich (お前自身)、ihn (彼自身)、sie (彼女自身)、es (それ自身)、uns (われ等自身)、Sie (あなた自身)、sie (彼等自身) を附して、各人稱の變化を作ります。

#### (5) 複合動詞 (Zusammengesetzte Verben)

複合動詞といふのは、動詞と他の詞又は前綴とが連接して一つの動詞となつたものです。例: haus-halten=haus+halten (家政をさる)、beginnen=be+ginnen (始める)。

此動詞には次の三種があります。

#### I. 分離動詞 (Trennbare Verben)

これは現在と過去と命令法に於てのみ分離し、他の場合は分離しません。これに屬するものは (a) 前置詞 an, aus, auf, bei, mit, nach, ob, vor 及び副詞 ab, bar, ein, fort, hin, weg, zurück, zusammen, nieder. を有するもの。(b) 名詞或は形容詞と組立てられたる動詞の大多數。

なほ分離されたる場合は前綴は文章の語尾に置かれます。

例: Der Schulunterricht sängt um 9 Uhr an. (授業は九時に始まります。)

#### II. 非分離動詞 (Untrennbare Verben)

これは如何なる場合にも分離しないもので、(a) be, emp, ent, er, ge, ver, zer の前綴、及び形容詞

voll 或は前置詞 *wider* と組立てられたものです。例・bestellen (命令する), ergreifen (握む), (b) 複合名詞又は複合形容詞より轉化したもの。例: antworten (答へる), offenbaren (公表する)。

### III. 分離非分離動詞 (Bald trennbare, bald untrennbare Verben)

これは前置詞 *durch, über, hinter, um, unter* 或は副詞 *wieder* と組立てられたもので、此種の動詞は、原意を保存した場合は主な強聲が前にあつて分離しますが、比喩的又は抽象的意味の場合は主な強聲が後部にあつて分離しません。

例: (分離) übersetzen (渡す): Der Fährmann setzte uns über. (船頭が私達を渡してくれた)  
(非分離) übersetzen (翻譯す): Ich übersetze Heines Gedichte ins Japanische. (私はハイネの詩を日本語に譯した)

## VI. 數 詞 (das Numerale)

數詞は數をいふ詞で、定數詞 (das bestimmte Numerale) と不定數詞 (das unbestimmte Numerale) とがあり、又定數詞には基數字 (Grundzahlen) と順序數字 (Ordnungszahlen) とがあります。記語の一、二、三は基數字で、第一、第二、第三は順序數字です。

### (a) 基數字

0 null	1 eins	2 zwei	3 drei	4 vier	5 fünf	6 sechs	7 sieben
8 acht	9 neun	10 zehn	11 elf	12 zwölf	13 dreizehn (=drei+zehn)		
14 vierzehn	15 fünfzehn	16 sechzehn	17 siebzehn	18 achtzehn	19 neunzehn		
20 zwanzig	21 einundzwanzig	22 zweiundzwanzig	23 dreiundzwanzig				
30 dreißig	40 vierzig	50 fünfzig	60 sechzig	70 siebzig	80 achtzig	90 neunzig	
100 hundert	101 hundertheins (又は hundertundein)	300 dreihundert	400 vierhundert				
565 funfihundertfundsichzig	628 sechshundertachtundzwanzig						
715 siebenhundertfünfzehn	950 neunhundertfünfzig						
1000 tausend	2431 zweitausendvierhundertdreissig						
10000 zehntausend	100000 hunderttausend						
1000000 eine Million	2000000 zwei Millionen						

上表の様に 1—12 は各個別の言葉、13—19 は一位の數を前にし zehn を附し、20—29 は zig を附加します。但し 30 だけは zweissig となります。21, 31 等の端數あるものは、その端數を前に置き und を置いてから十位の數を加へます。101 以上は百位の方を前にします。

又 ein は組立數詞の前では ein となります。

hundert (百), tausend (千) は名詞となる時は百字を大きく、又 Million は常に名詞です。二百萬の場合には zwei Millionen と複數になります。

### 基數字の變化

ein は名詞に先立つ時は不定冠詞と同様に變化しますが、單獨に用ひられる場合には定冠詞と同様に變化します。即ち男性單數の einer, eines, einem, einen となります。zwei, drei はその前に定冠詞、代名詞、前置詞等が来た場合に限り三格四格で zweier, zweien; dreier, dreien となりますがその他は不變化です。

vier 以上の數は sieben (7) を除き名詞が後続しない場合は三格で en の語尾をとりま。

### (b) 順序數字

順序數字の 1 から 19 までは基數に t を加へて作ります。例: zweit (第二), viert (第四), funft (第五) 但し第一は erst, 第三は dritto といつて、例外です。

又第二十以上は st を加へます: zwanzigst (第二十), dreissigst (第三十)。なほ順序數字は一種の形容詞とも見られ、その變化は形容詞と同じです。例: Sein dritter Schurz. (彼の三番目の射撃)。

### 基數字と順序數字の關係

年月日の中、年號は基數を用ひ、月はその名詞或は第何月といふ場合には順序數字、日は順序數字を用ひます。又年齢は普通に基數字を用ひ、第何才といふ場合には順序數字を用ひます。例: Ich bin am 5. November 1910 in Berlin geboren. (私は 1910 年十一月五日に柏林で生まれました)。

時間は基數字を用ひます。例: Es ist gerade eins. (丁度一時です)。

### (c) 不定數詞

不定數詞は jeder (各の), alle (凡ての), viel (多くの), manche (多くの), wenig (僅かの), mehrere (數個の), einige (二三の), ein paar (二三の), ganz (全く), genug (十分の), etwas (少し), kein (一つも……なし)。

以上の不定數詞の中 genug, etwas, ein paar は無變化、他は形容詞と同様の變化をします。

## VII. 前置詞 (die Präposition)

前置詞は名詞或は代名詞の前に置かれて、所在、方法、原因、時刻等の關係を明示するものです。例: Er ist in dem Garten. (彼は庭園にゐる)。

獨逸語の前置詞について厄介なことは、前置詞によつてその次に來る名詞或は代名詞が或は二格となり、或は三格となり、或は四格となり、又三格と四格の何れかとなるといふ四種の前置詞があることです。

### (1) 二格を支配する前置詞。

Je seits des Fluss s (川 の彼方に)、Unweit der Stadt (町よりほど遠からぬ)、diesseits der Eisenbahnlinie (鐵道線路の此方に)、während der schönen Jahreszeit (美しい季節の間に)、ausserhalb der Stadt (町の郊外に)、wegen meines Bruders (私の兄弟のために)、zufolge des Willens meiner Eltern (私の両親の意志に従つて)、dem Willen meiner Eltern zufolge (私の両親の希望に従つて)、kraft des Gesetzes (法律によつて)、des schlechten wetters halber (2) (悪天候のために)、innerhalb des Dorfes (村落の中に)、ausserhalb des Hauses (家の外に)、wagen der grossen Strecke (遠距離のために)、Während des Krieges (戦争中)、längs des Weges (線路に沿うて)。

(1) zufolge は名詞の前にある時は第二格を支配し、名詞の後に置かれた時は第三格を支配します。又 (2) Wegen は名詞の前にも後にも置くことが出来ます。Seiner Tugend wegen 又は wagen seiner Tugend (彼の徳のために) halber も名詞の後に置くことが出来ます: Ehren halber (名譽のために)。

### (2) 三格を支配する前置詞

Seit zehn Tagen (十日以來)、meiner Lehrer entgegen (私の先生の前に)、mit meinem Freunde (私の友人と一緒に)、bei der kirche (教會の近くで)、binnen einer Viertelstunde (ここから三十分で)、mit ihm (彼等と共に)、Zu wem? (誰れの家へ)、Ihrem Befehle gemäss (君の命令に従つて)、ausserhalb der Stadt (町の外に)、dem Bahnhof gegenüber (停車場に面して)、sannt seinem Freunde (彼の友人と一緒に)、meinem Willen zuwider (私の意思に反して)、nach dem Flusse (川へ)、Von wem? (誰れから)、aus der Schule (學校から)、dem Briefträger entgegen (製造所の前へ)、unserem Hause gegenüber (私達の家に面して)、Meiner Hoffnung zuwider (私の希望に反して)、mein r Meinung gemäss (私の考へで)。

## (3) 四格を支配する前置詞

Gegen den Strom (流れに逆つて), Gegen meinen Willen (私の意思に反して), um meinen Hals (私の頸の周りに), um diese Gegend (此地域の附近に), um eine Stelle (一つの地位を見付けるために), um sieben Uhr (七時に), für meinen Sohn (私の息子のために), für einem Ausländer (他國人のために), ohne mich (私がみなくとも), ohne den Lehrer (先生なしで), durch den Fluss (河を横切つて), durch den Wald (森を通つて), durch die Nase (鼻で), den ganzen Tag hindurch (全一日中)。

## (4) 三格或は四格を支配する前置詞

此種の前置詞は、靜止的な状態を示す場合には、その支配を受ける詞は三格となり、動作或は状態の變化を示す場合にはその支配を受ける詞は四格となります。

## 三格を支配する場合 (靜止的)

Ich sitze neben Ihnen.

(私は君の側に坐つてゐる)

Sie stehen vor mir.

(君は私の前に立つてゐる)

Das Buch liegt auf dem Tische.

(本は机の上にある)

Sie stehen hinter dem Stuhl.

(君は椅子のうしろにゐる)

Wer steht zwischen Ihnen und mir?

(君と僕との間にゐるのは誰れか?)

Was sehen Sie unter dem Tische?

(机の下に何が見えるか)

Ich werde Sie au dem Bahnhof erwarten.

(私は停車場で君を待つてゐる)

Das Bild hängt über dem Fenster.

(額が窓の上にかゝつてゐる)

## 四格を支配する場合 (動作的)

Ich setze mich neben Sie.

(私は君の側に坐はる)

Sie setzen sich vor mich.

(君は私前に坐る)

Ich lege das Buch auf den Tische.

(私は本を机の上へ置く)

Ich werfe diesen BI istift hinter den Stuhl.

(私は此の鉛筆を机のうしろへ投げた)

Wer geht zwischen Sie und mich?

(君と僕との間に歩いてゐるのは誰れか?)

Die Katze geht unter den Tische.

(猫が机の下を行く)

Ich gehe an den Bahnhof.

(私は停車場へ行く)

Ich hänge das Bild über die Tür.

(私は額を戸の上へかける)

## VIII. 副詞 (des Adverbium)

副詞は、形容詞が名詞の意味を限定助長する様に、動詞或は形容詞又は他の副詞、時には名詞の意味を限定助長する用をなすもので、その語の意義により、時の副詞、所の副詞、量の副詞、方法の副詞、原因の副詞などに分類することも出来ます。なほこれは形容詞と同じ様に比較級最上級を作る場合を除いては、不變詞です。

例: Wollen Sie vielleicht mit uns kommen? (君は多分僕と一緒に来てくれるでせう。)—Ja, sehr gern. (え、非常に喜んで)。

## 主なる副詞とその用法

Wo sind Sie? (何處にゐるか)—Woher kommen sie? (何處から来たか)—Wohin gehen sie (何處へ行くか)—hier (此處で), dort (其處で)—Ich habe meine Messer überall gesucht; ich habe es nirgends gefunden. (私は私のナイフを到る處探したが、何處にも見當らなかつた)—Um auf die Post zu gehen nehmt die erste Strasse rechts und dann die erste links. (ポストへ行くには第一の通りを

右へ曲つて、それから又第一の道を左へ曲るのです。)—Gang nahe (すぐそばに), oben (上に), unten (下に), vorn (前に), hinten (うしろに), vorwärts (前方へ), rückwärts (後方へ)—Kommen Sie herauf! (上へ来い)—Gehen Sie heraus! (外へ行け)—Heute gehe ich nicht weit, denn gestern bin ich sehr müde gewesen. (今日は、私は遠くへは行かない、何故なら非常に疲れてゐるから。)—Morgen oder übermorgen werde ich zurück sein. (今日か明日か私は歸るでせう。)—Bisher bin ich zweimal dort gewesen. (私はそこへこれまでに二度行つた。)—Ich habe diese Stadt schon manchmal durchfahren. (私はすでに折々鐵道でこの都會を通過した。)—vielleicht (多分), wahrlich (本當に), höchstens (せいぜい), ganz (全く)

## 副詞の等級的變化

等級的變化をなす本邦の副詞は極く少なく、hard (直に), fern (好んで), oft (屢々), wohl (よく)の數語に過ぎず、これ等は比較級で, eher, lieber, öfter, wohler となり、最上級で am ehesten, am liebsten, am öftesten, am wohlsten といふ形をとります。

## IX. 接續詞 (die Konjunktion)

接續詞は語と語、又は文章と文章とを結ぶ用をなすもので、それ自體は不變化ですが、文章が連結される場合には、その結ばれる意義によつて、相對的接續詞と從屬的接續詞とに分けられます。

(1) 主なる相對的接續詞: und (及び、又), Entweder, oder (又は), nicht allein (のみならず), sondern (併し又), auch (同様に), sei es, sei es (であれ、であれ), jedoch (けれども), ferner (それから、次に), übrigens (なほ又)。

(2) 主なる從屬的接續詞: ob (若しも), wenn (時に), sobald als (するや否や), dass (といふことを), damit (のために), ie nachdem (に従へば), in falle dass (の場合に於て), so dass (の如くに) 後者に於ては、これを語頭とする文章の動詞を接續法となす場合が多いのですから、動詞の接續法の項を御参照下さい。

## 接續詞の用法

Wir hoffen, dass der Lehrer mit uns zufrieden ist, wenn auch unserre Aufgaben nicht fehlerfrei sind. (たとへ私達の宿題がいつも間違ひを免れないでも、先生が私達に満足して下さることを望みます。)—Ich weiß nicht, ob ich ihn sehen werde oder nicht. (私はそれを見るか見ないか分からない。)—Ich möchte meinen Freund sobald als möglich besuchen. (私は出来るだけ早く私の友人を訪ねたいのです。)—Wenn ich jedoch verhindert wäre, so würde ich ihm schreiben. (けれども私は止められても、彼に手紙を書きませう。)—Sobald sich die Gelegenheit dazu bietet (機會だにめぐり来らば直ちに。)—Ich werd diese Reise bald unternehmen, und werde Ihnen Nachrichten geben. (私は最近に此旅行を企圖しますから、そしたら私はあなたに便りを上げませう。)

## X. 間投詞 (die Interjection)

間投詞は又感嘆詞 (Empfindungswort) ともいひ、人の喜び、哀樂、驚怖、嫌惡の端的な感情を表現する言葉で (喜悅) ha! hei! a! hei! ei! ah! (苦痛) ach! o weh! au! leider! oh! (恐怖) hu! uh! (驚嘆) o! ach! oho! (嫌惡) pfui! ah! (疑惑) hm! hu! aha! などがそれです。

なほ一般の會話に用ひられる間投詞の言葉には次の様なものがあります。

Oh, Sie sind es! (おう! 君か), Ach, nein, (あゝ! いや), Entschuldigen Sie! (すまない!), Nun! ich muss sagen; der Zug ist heute voll. (さうだ! 今日は汽車が満員だといふことを言はなけりやならない), Prachtvoll! (見事だ!), St! (靜かに!), Hallo! (もしもし!)

又副詞の Ja, (え), Nein, (いいえ) も亦一種の間投詞的言葉です。

## Deutsche, englische und Japanische Umgangssprache

## 日・獨・英・會話集

- |  |  |                                 |
|--|--|---------------------------------|
| 1. Können Sie Deutsch sprechen?  | 1. Can you speak English?                                | 1. 貴君は獨逸語を話すことが出来ますか?           |
| 2. Ich wünschte, ich könnte es.  | 2. I wish I could.                                       | 2. 話せばよいと思ひます。                  |
| 3. Sprechen Sie Deutsch?   | 3. Do you speak German?                                  | 3. 貴君は獨逸語を話しますか?                |
| 4. Ja, ein wenig; gerade genug, um mich verständlich zu machen.          | 4. Yes, a little; just enough to make myself understood. | 4. えゝ、ほんの少し、どうやら分る位です。          |
| 5. Ich kann (spreche) nicht viel Deutsch.                                | 5. I don't know (speak) much German.                     | 5. 私は獨逸語を澤山知り(話し)ません。           |
| 6. Ich verstehe Deutsch nicht sehr gut.                                  | 6. I don't understand German very well.                  | 6. 私は獨逸語を非常によくは分りません。           |
| 7. Finden Sie nicht, dass Deutsch sehr schwer ist?                       | 7. Don't you think German is very difficult?             | 7. 貴君は獨逸語はむづかしいと思ひますか。          |
| 8. Ich finde es schwer.  | 8. I find it difficult.                                  | 8. それはむづかしいと思ひます。               |
| 9. Ja, die Grammatik ist schwer.   | 9. Yes, the Grammar is difficult.                        | 9. はい、文法がむづかしいです。               |
| 10. Haben Sie Englisch lieber als Deutsch?                               | 10. Do you like English better than German?              | 10. 貴君は獨逸語より英語の方が好きですか?         |
| 11. Dass kann ich nicht sagen, Ich habe (spreche) sie beide gleich gern. | 11. I can't say. I like (speak) them both equally well.  | 11. それは申せません。私は兩方共同じ位に好き(話し)ます。 |
| 12. Ich glaube, ich verstehe Sie nicht.                                  | 12. I am afraid, I don't understand you.                 | 12. 私は、貴君の仰しやる事が分らないのを案じます。     |
| 13. Es tut mir leid, ich verstehe Sie nicht.                             | 13. I am sorry, I don't understand you.                  | 13. 私は、貴君の仰しやる事が解らないのが残念です。     |
| 14. Wie lange brauche ich, um Deutsch zu lernen?                         | 14. How long will it take me to learn German.            | 14. 獨逸語を覚えるにはどの位日數がかかりますか。      |
| 15. Wie sprechen Sie.....aus?  | 15. How do you pronounce ...?                            | 15. ....はどう發音しますか?              |
| 16. Wie schreiben (od: buchstabieren) Sie.....?                          | 16. How do you spell.....?                               | 16. ....はどう綴りますか?               |
| 17. Wie geht es Ihnen?   | 17. How do you do?                                       | 17. 御機嫌はいかがですか?                 |
| 18. Wie befinden Sie sich?   | 18. How are you?   | 18. 御機嫌はどうですか?                  |
| 19. Hallo, alter Freund, wie geht's?                                     | 19. Hallo, old man, how are you?                         | 19. もしもし、おちいさん、元氣ですか?           |
| 20. Guten Morgen.....guten Abend, gute Nacht, guten Tag.                 | 20. Good morning, afternoon, evening, night, day.        | 20. お早う、今日は(午後、夕方、夜、日中)         |
| 21. Auf Wiedersehen!   | 21. Good bye!  | 21. さようなら。                      |

- |   |   |                                  |
|---|---|----------------------------------|
| 43. Bitte, führen Sie Herrn B. in mein Zimmer.  | 43. Please take Mr. B. into my room.  | 43. どうぞ、Bさんを室へ通して下さい。            |
| 44. Ich glaube nicht; dass wir uns schon getroffen haben; nicht wahr?                 | 44. I don't think we have met before, have we?                                | 44. 私達は以前に御會ひしたとは思ひませんが、ねえ?      |
| 45. Herr Professor, ich glaube, Sie haben meine Schwester noch nicht kennengelernt.   | 45. Professor, I don't think you have met my sister.                          | 45. 先生、私は、貴君が私の妹に御會ひになつたとは思ひません。 |
| 46. Kennen Sie meine Frau?  | 46. Do you know my wife?  | 46. 貴君は私の妻を御存知ですか。               |
| 47. Sie müssten Herrn Hanada kennen/lernen.   | 47. You ought to meet Mr. Hanada.   | 47. 貴君は花田さんに御會ひにならなければいけません。     |
| 48. Ich muss Ihnen etwas sagen.   | 48. I've something to tell you.   | 48. 貴君に御話しすることがあります。             |
| 49. Ich möchte Ihnen gerne etwas sagen.   | 49. There's something I'd like to tell you.                                   | 49. 貴君に、私は御話し致したいと思ふ事があります。      |
| 50. Meinen Sie das im Ernst?  | 50. Do you mean that in earnest?  | 50. 貴君は熱心にそれをいふのですか?             |
| 51. Natürlich.  | 51. Of course I do.   | 51. 勿論、さうです。                     |
| 52. Was wollte ich doch gleich sagen?   | 52. What was I going to say?  | 52. 私は何を御話してましたか?                |
| 53. Ach, ich weiss. Über diesen Punkt ist viel zu sagen.                              | 53. Oh! I know. There is much to be said on this point.                       | 53. さうだ、此點について澤山申すべき事があります。      |
| 54. Übrigens.   | 54. By the by.  | 54. 順序よく(お話し下さい)。                |
| 55. Sie wissen was ich meine.   | 55. You know what I mean.   | 55. 貴君は私の言つてゐる事を御存知です。           |
| 56. Ich kann nicht auf das richtige Wort kommen.                                      | 56. I can't think of the exact word.  | 56. 私はその正確な言葉が解らない。              |
| 57. Nein, das ist es nicht, was ich meine.  | 57. No, it isn't that I mean.   | 57. いゝえ、それは私のいつてゐる意味ではありません。     |
| 58. Er ist eine Art.....  | 58. He's a sort of.....   | 58. 彼は.....の種類の人です。              |
| 59. Ich weiss nicht genau, wie es heisst.   | 59. I don't quite know what it is called.                                     | 59. 私はそれが何と言ふのか全く知りません。          |
| 60. Etwas wie.....  | 60. Something like.....   | 60. ....の様なもの。                   |
| 61. Wissen Sie es genau?  | 61. Are you sure?   | 61. 確かですか?                       |
| 62. Das ist ganz bestimmt wahr.   | 62. That's quite true.  | 62. それは全く本當です。                   |
| 63. Wahrscheinlich.   | 63. Very likely.  | 63. 大いにありさうなこと。                  |
| 64. Vielleicht nicht.   | 64. Perhaps not.  | 64. 恐らくさうでないでせう。                 |
| 65. Ich glaube nicht.   | 65. I don't think so.   | 65. 私はさう思はない。                    |
| 66. Es kommt nicht darauf an.   | 66. It doesn't matter. Never mind.  | 66. それは何でもない事です、御心配なく。           |
| 67. Zwanglose Einladungen oder Verabredungen werden gewöhnlich telephonisch erledigt. | 67. Informal invitations or appointments are generally arranged by telephone. | 67. 定まつた招待又は會合の豫約は一般に電話で打合はされる。  |

- 22 Ich hoffe, Sie ba'd wiederzusehen. 22 I hope to see you again soon!
- 23 Ich hoffe, Sie morgen zu sehen. 23 I hope to see you to-morrow!
- 24 Sie sehen wohl aus. 24. You are looking fine.
25. Was macht Herr S., Ihr kleiner Junge? 25. How is Mr. S., your little boy.
26. Wie geht es den Kindern? 26. How are the children?
27. Danke, sie befinden sich alle wohl. 27. Thank you, they are all well.
28. Hideo ist leider erkältet. 28. I'm sorry to say Hideo has a cold.
29. Wann wollen Sie zu uns zum Essen kommen? 29. When will you come and dine with us?
30. Kommen Sie mit mir zum Gabelfrühstück. 30. Come and lunch with me.
31. Schönes Wetter heute, gnädige Frau, nicht wahr? 31. Fine weather to-day, madam, isn't it?
32. Wir müssen jetzt Abschied nehmen. 32. Well, we have to say good-bye (or: adieu) now.
33. Gestatten Sie, dass ich mich vorstelle. Mein Name ist A.B. 33. Pray let me introduce myself to you. My name is A.B.
34. Oh, Sie sind es, Es freut mich sehr, Sie endlich kennenzulernen. Meine Schwester hat mir so viel von Ihnen erzählt. 34. Oh! It's you, I'm so glad to meet you at last, my sister has told me so much about you.
35. Gestatten Sie, dass ich Ihnen Herrn B. Vorstelle 35. Let me introduce Mr. B. to you.
36. Wie geht es Ihnen? Ich habe so viel von Ihnen gehört, dass ich mir fast wie ein alter Freund von Ihnen vorkomme. 36. How do you do? I have heard so much about you that I feel almost like an old friend of yours.
37. Haben Sie Herrn B. schon einmal getroffen? 37. Have you ever met Mr. B.?
38. Möchten Sie Frau A. Kennenlernen (treffen)? 38. Would you like to meet Mrs. A.
39. Das ist Frä. B., von der ich neulich mit Ihnen sprach. 39. This is Miss B. of whom I spoke to you the other day.
40. Das ist meine alte Freundin Ethel. 40. This is my old friend Ethel.
41. Wollen Sie nicht herein-kommen? 41. Won't you come in, please?
42. Wollen Sie nicht Platz nehmen? 42. Won't you sit down?
22. 又そのうち御會ひしたいですね。
23. 明日、御目にかゝりたいですね。
24. 貴君は御元氣の御様子です。
25. 小さい御子息のSさんは御丈夫ですか?
26. 御子様方は御丈夫ですか。
27. 有難う、皆な丈夫です。
28. 秀雄さんが風邪をひかれたさうで御氣の毒です。
29. 私達と一緒に夕餐をなさりにいつ御出になりますか?
30. 私と一緒に待つて食事しませう。
31. 奥様、今日は佳い天氣ではありませんか。
32. では、もう御別れ(又は、しばらくの別れ)をしなければなりません。
33. 貴君に、私自身を紹介致します。私の名は A. B. です。
34. おう、貴君ですか、やつと御目にかゝれてとても嬉しい。私の妹が貴君の事をよく話してくれました。
35. 私に、貴君に、B. さんを紹介させて下さい。
36. 如何で被居いますか? 私は貴君の舊友の様に思ふ程貴君について存じて居ります。
37. 貴君はいつかBさんに御會になつたことがおありですか。
38. 貴君はA夫人にお會ひになりますか?
39. こちらが、いつか私が貴君に御話したB嬢です。
40. これは私の舊友のエテルです。
41. どうぞ御入り下さい。
42. 御坐りになりませんか。

68. Wollen wir uns morgen treffen? 68. Shall we arrange a meeting to-morrow?
69. Wir wollen uns doch an einem Tag nächster Woche treffen! 69. Let's fix up a meeting some day next week!
70. Wollen Sie mich heute nach-mittag am treffen? 70. Will you meet me this afternoon in?
71. Wo denn ungefähr? 71. Just about where?
72. Vor dem... 72. Outside.....
73. Hoffentlich verfehle ich Sie nicht. 73. I hope I shan't miss you.
74. Sie müssen mich ja sehen (treffen), wenn Sie die Augen offen halten. 74. You're bound to meet me if you keep your eyes open!
75. Lassen Sie mich nicht zu lange warten. 75. Don't keep me waiting too long.
76. Haben Sie lange gewartet? 76. Have you been waiting long.
77. Ach nein, ich bin eben erst gekommen. 77. Oh no, I've only just arrived.
78. Ich fürchte, ich habe mich verspätet, fürchte ich. 78. I'm afraid, I'm late.
79. Ich habe mich ziemlich verspätet. 79. I'm rather late, I'm afraid.
80. Hoffentlich habe ich nicht verspätet. 80. I hope, I'm not late.
81. Ich habe fast eine Stunde auf Sie gewartet. 81. I've been waiting for you nearly an hour.
82. Ich bin schon eine ganze Zeit hier. 82. I've been here quite a long time.
83. Die Uhr ging nach. 83. The clock was slow.
84. Deine Uhr geht vor. 84. Your watch is fast.
85. Meine Uhr ist stehen-geblieben. 85. My watch has stopped.
86. Ich habe tatsächlich den Zug versäumt. 86. The fact is, I've lost my train.
87. Nehmen Sie das nächste Mal lieber ein Auto. 87. You'd better take a taxi next time.
88. Versuche doch früher zu kommen, wenn du kannst, ich habe nichts Besonderes zu tun. 88. Try to come earlier, if you can, I haven't anything particular to do.
89. Ich bin heute nachmittag frei. 89. I shall be free this afternoon.
68. 私達は明日會合を開きませうか?
69. 次週の何日かに會を開かうではないか。
70. 貴君は此後私に會ひませんか?
71. 正確に何處で?
72. ...の外で。
73. 願くば貴君に會ひ損はない様に。
74. 貴君が眼さへ開けておれば必ず私と會ひます。
75. 余り長く持たせないで下さい。
76. 貴君を長く待たせましたか。
77. あ、いや、私はたつた今來たのです。
78. 済みません、遅れました。
79. むしろ遅れるのが心配です。
80. 私は遅れたくはありません。
81. 私は貴君を一時間待つた。
82. 私は此處で全く長い間待つた。
83. 時計がおくれてゐた。
84. 貴君の時計はすゝんでゐる。
85. 私の時計は止つてゐる。
86. 實は、私は汽車に乗りおくれたのです。
87. 次回はタクシーでいらつしやい。
88. 早く来るやうに努めて下さい。それが出来れば、私は何もいふべきことはない。
89. 私は此午後自由です。



特50

486



終